

リアホナ

表紙の記事

神殿を尊ぶ, 10ページ

家徴——秘密ではなく神聖な事柄
14, 26ページ

何を着るべきでしょうか?
「フレンド」8ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリグ、ティーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・ハトラ、リンダ・ステル・クーバー、ラリー・ポーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オテカーク、ジュディス・M・パーラー、ピビア・ン・ポールセン、サラ・R・ポーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリ、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェーブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム、ニコール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー、オーヌ、ワード・G・ブラウン、ジュリー・パーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/001000-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タミル語、タミル語、中国語、チェコ語、デルク語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フロンラング語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines February 2007.
Japanese. 00782 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

February 2007 no. 2 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——靈感を伝える言葉
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
- 14 なぜ象徴が使われるのか
- 20 神殿がもたらすこの上ない平安
- 25 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストに対する
証を強めることにより、
神の御手に使われる者となる
- 26 良いサマリヤ人——忘れられた象徴
ジョン・W・ウェルチ
- 40 決して一人ではない
アン・グレンズバック
- 44 末日聖徒の声
直前の変更
ジャッキー・オーマン
覚えていたクリケット
デニス・パークス
一人につきバケツ1杯
ジェームズ・W・リッチー
- 48 読者からの便り



14 なぜ象徴が使われるのか

44 覚えていたクリケット

表紙

写真/ポール・バンデンバーク

「フレンド」表紙

絵/マシュー・スミス

家庭の夕べのためのアイデア

クラスでのレッスンや家庭において、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「**神殿を尊ぶ**」10ページ——神殿の絵を見せてください。グローネワルド会長が述べた、神殿の4つのすばらしい祝福について話してください。神殿の祝福を受けるために、どのように備えることができるか、話し合ってください。神殿に参入する助けとなる目標を、家族一人一人に発表するように言ってください。

「**良いサマリヤ人——忘れられた象徴**」26ページ——たとえば、地上にある物や、わたしたちが生活で経験

することになぞらえて神聖な真理が教えられることを説明してください。良いサマリヤ人のたとえを簡単に話してから、ウェルチ兄弟が教えているこのたとえの深い意味について説明してください。家族にこう尋ねてください——「あなたはこれまで、イエス・キリストに、どのように助けられてきましたか。」「あなたはこれまで、教会から、どのような助けを受けてきましたか。」「あなたはどのようにすれば、行って同じようにすることができますか。」

「あなたはこれまで、教会から、どのような助けを受けてきましたか。」「あなたはどのようにすれば、行って同じようにすることができますか。」

「あなたはこれまで、教会から、どのような助けを受けてきましたか。」「あなたはどのようにすれば、行って同じようにすることができますか。」

「**人生の指針となる10の根本原理**」34ページ——記事中の10個の原則が



こんげつごう かく
今月号のどこかに隠れている

CTRリングを捜しながら、
イエス・キリストがどのような御方が
教えてくれる、
あなたの大好きな聖文の物語について
考えてください。



青少年

- 7 ポスター——成功は良い選びから
- 8 母の冷蔵庫 エンマ・E・サンチェス・サンチェス
- 10 神殿を尊ぶ ポール・バンデンバーク
- 22 質疑応答——
友人の女の子はひどく落ち込んでいるようで、
自殺さえ考えているのではないかと心配です。
どうしたらよいでしょう。
- 34 人生の指針となる10の根本原理 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 43 アイデアリスト——家族で仲良く過ごす

34 人生の指針となる 10の根本原理



一つずつ書かれた紙片を家族に配ってください。家族に交代で一つずつ読んでもらい、その原則が、いかに人生の指針となるか話し合ってください。このリストに加えられような原則があるか、家族に尋ねてください。最後に、記事の最後の4つの段落を読んでください。

「シーツビショップを支持する」

F12ページ——家族の一人に、両腕を伸ばして立ってもらってください。手のひらに本を積むなどして、両腕それぞれに、徐々に負荷をかけてください。重みが増したところで、ほかの家族に腕を支えるように言ってください。だれかを支持するとは、ど

のような意味か、尋ねてください。あなたがこの記事を読んでいる間、シーラがどのようにビショップを支持したか注意して聞くように言ってください。あなたのビショップまたは支部会長を支持するためにあなたの家族ができることを、書き出してください。家族で、クッキーや感謝を書いたカードなど、何かを作って、ビショップや支部会長に渡してください。

フレンド

- F2 預言者の声——聖なる光
ジェームズ・E・
ファウスト管長
- F4 分かち合いの時間——
わたしはしんこうをもって
しゅにしたがいます
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・
キンボールだいかんちょうの
しょうがいから
——いのちびろいしたスペンサー
- F8 何を着て行く？
ジェニファー・ローズ
- F10 イエスのように
おどろくようなこと
アウグスト・B
けんかはよくない
アラン・S
- F11 色をぬりましょう
- F12 シーツビショップを支持する
シーラ・キンドレッド
- F15 特別な証人——
どうしたら聖文についてあかしが得られるでしょうか？
ラッセル・M・ネルソン長老



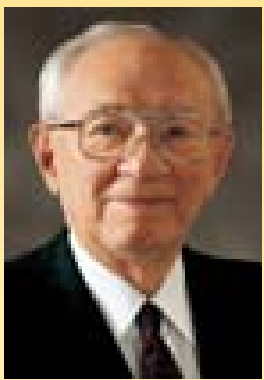
F8 何を着て行く？

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

あかし証 あがな贖い	・2, 14, 20, 25, F15 ・2	試練 神権指導者を支持する	・34, 40, 46, F6
争い	・43, F10	信仰	・F4, F11
イエス・キリスト	・2, 25, 26, F4, F11	神殿	・10, 14, 20, 34
祈り	・44	聖文研究	・F15
うつ病	・22	選択の自由	・34, F8
教えること	・6, 8, 44	たとえ	・26
改宗・改心	・40, 45	伝道活動	
家族	・8, 40, 43	平安	・40, 45, 46, F2, F10
家庭のタペ	・1	服装	・7, 10, F8
家庭訪問	・25	扶助協会	・25
キンボール、スペンサー・W	・F6	ホーム・ティーチング	・6
財政	・34	奉仕	・F2
慈愛	・26, F12	目標	・34
自殺	・22	模範	・2, F2
象徴	・14, 26	友情	・22, 43, F10
初等協会	・F4		

靈感を 伝える言葉



皆さん一人一人に、
イエス・キリストの福音の
永遠の真理を伝える
証人として立つ責任が
与えられています。
皆さんの責任は、
人々の目を開き、
「やみから光へ
……帰らせ[る]」こと
にあります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

あかし 証

「わたしの証をお伝えしたいと思います。わたしは、永遠の父なる神が生きておられること、その神が宇宙の偉大な統治者であられること、そして、わたしたちが神の子供であって、神がその子供たちの祈りを聞き、こたえてくださることを知っています。イエスはキリストであり、生ける神の御子です。そのイエスはいと高き天の住まいを去られて、人の中に降臨されました。そして、人に嫌われ、さげすまれながらも、良い働きをお続けになった〔使徒10：38参照〕のです。皆さんに知っていただきたいことは、わたしがそれははっきりと知っているということです。イエスは、人々から嫌われ、十字架にかけられましたが、3日目に『眠っている者の初穂として』よみがえられました(1コリント15：20)。皆さんに知っていただきたいことは、その御父と御子が少年ジョセフ・スミスのもとに御姿を現し、このすばらしい神権時代を始められたということです。この神権時代は全世界の歴史上、最も大いなる神権時代なのです。」(会員との集会、韓国ソウル、2005年7月31日)

わたしたちのために払われた犠牲

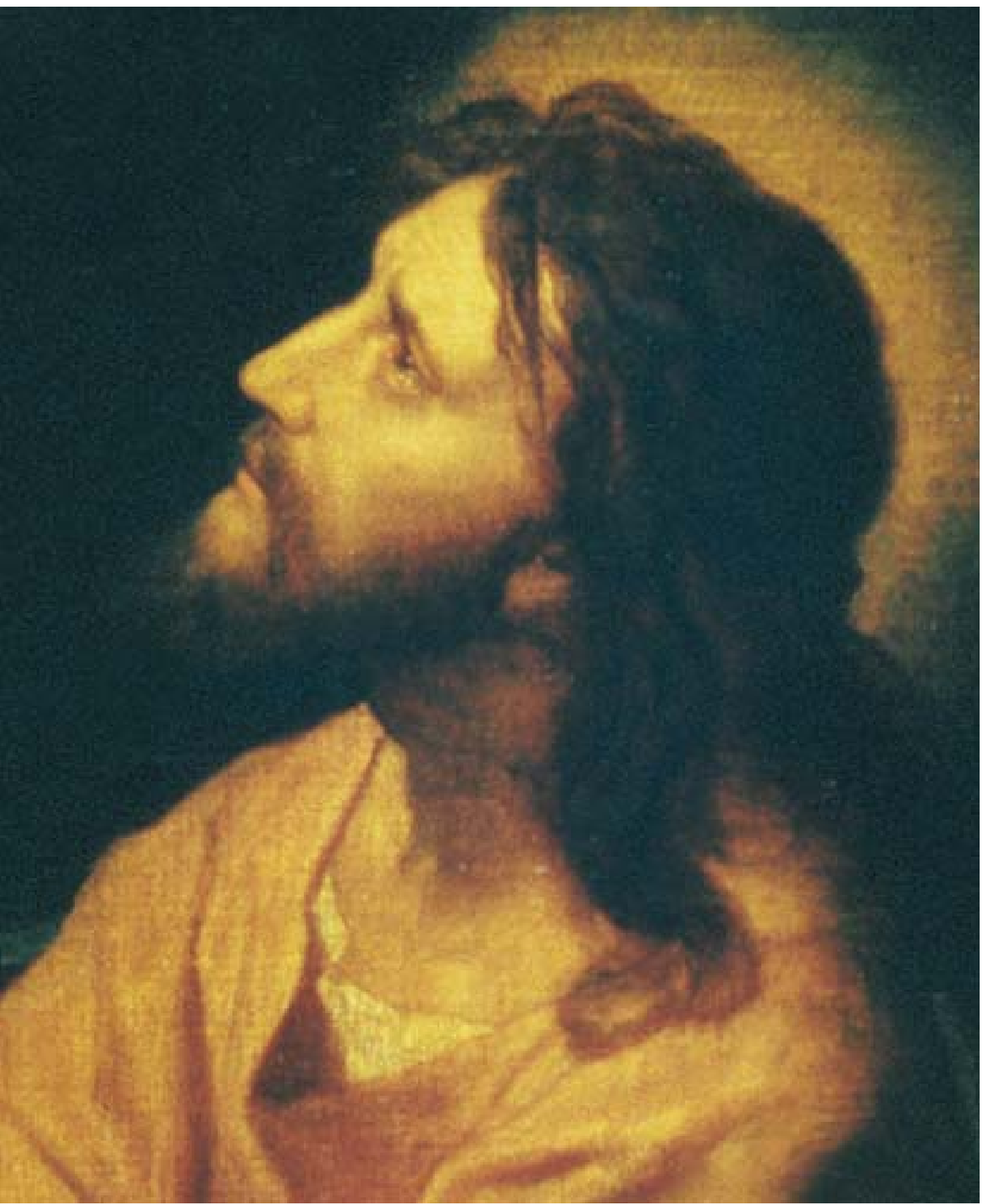
「わたしは、イエス・キリストの福音に対して、また、救い主の贖いの証に対して、心の底から感謝の念を抱いています。わたしは全霊を込めて福音を信じていますし、福音と証を生き

がいとしています。今日この日、わたしはそのことを証します。人類の歴史において、いかなる出来事と比較しても、その意義においても、その成果においても、救い主の贖いに匹敵するものはありません。神が大切な独り子を賜ったことに感謝しています。そして、わたしたちは皆、御子がわたしたちのために払ってくださった犠牲に、心からの感謝をささげるのです。」(会員との集会、デンマーク、コペンハーゲン、2004年5月22日)

イエス・キリストの神聖な使命

「わたしたちは、愛と信仰のきずなで一つに結ばれた偉大な家族です。わたしたちは、民としても個人としても、豊かに祝福されています。わたしたちの心の中には、主イエス・キリストの神聖な使命に対する確固とした揺るぎない確信があります。

イエスは、旧約聖書の偉大なエホバであり、御父の指示の下に万物をお造りになり、『できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった』と言われた創造主でもあられます(ヨハネ1：3)。また、約束のメシヤであられ、『その翼には、いやす力を備えている』と言われたお方でもあります(マラキ4：2)。また、数々の奇跡を行われた御方であり、偉大な癒し主でもあり、よみがえりであり、命でもあります。天の下にあって、わたしたちが救いにあずかることのできる名前はこの名をおいてほかにはありません〔使徒4：12参照〕。……



また、イエスは永遠の御父からの贈り物として降臨されました。『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。』(ヨハネ3:16)

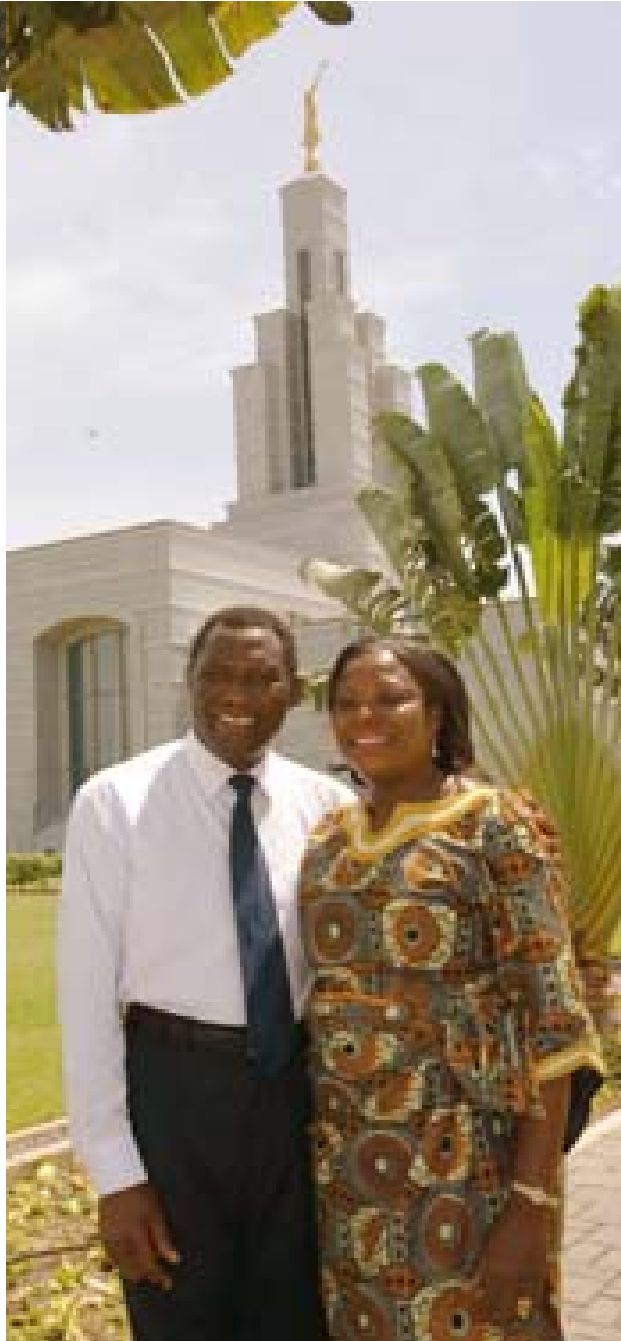
イエスは、いと高き玉座を去り、身を低くして地上に來られ、征服された国の馬小屋の中でお生まれになりました。そして、パレスチナのほこりまみれの道を歩み、病人を癒し、福音の教義を教え、御自分を受け入れるすべての人に祝福をお与えになりました。

さらに、カルバリの丘で、わたしたち一人一人のために御自分の命をささげられたのです。そうすることで、わたしたちが享受し得る最大の賜物、すなわち復活と永遠の命という賜物を下さったのです〔教義と聖約14:7参照〕。

わたしたちはイエスの誕生を心から喜びます。しかし、その誕生も、イエスの死がなければ、単に人が一人生まれたということではなかったかもしれません。ゲツセマネの園で、そして、カルバリの十字架の上で成し遂げられた贖いは、主の贈り物を、

不滅で、普遍的で、永遠のものとなりました。全人類の罪のために偉大な贖罪の業をされたイエスは、まさによみがえりであり、命であり、『眠っている者の初穂』なのです(1コリント15:20)。イエスの業のおかげで、全人類は墓からよみがえるのです。

わたしたちはイエスを愛し、たたえ、礼拝し、イエスに感謝しています。イエスは、わたしたち一人一人のために、そして全人類のために、ほかのだれも成し得なかったことを実行されました。最愛の御子、すなわち、わたしたちの救い主、世の贖い主を賜った神、全人類のための犠牲としてささげられた傷のない小羊を賜った神に感謝します。〔宣教師を対



わたしたちは非常に複雑な時代に生を受けています。わたしたちの避け所、平安、幸福は、主の道を歩む中にあるのです。

象とするディボーションナル、合衆国ユタ州ソルトレーク・シティー、2002年12月15日)

証人として立つ

「今晚、わたしは、パウロがダマスコへ向かう途中で経験した、あの偉大な出来事のことを考えています。パウロは天から下る光を見、自分に語りかける声を聞きました。そのために地に倒れ、こう尋ねます。『主よ、あなたはどなたですか。』

それに対して、イエスはこう答えられます。『起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現れたのは、あなたが……あかしし、これを伝える務に、あなたを任じるためである。……

それは、彼らの目を開き、彼らをやみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ……るためである。』(使徒26:15-16,18)

さて、わたしは、主からパウロに与えられたこの同じ命令がわたしたち一人一人にも当てはまると考えています。主はこう言われました。『起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現れたのは、あなたが……あかしし、これを伝える務に、あなたを任じるためである。』

イエス・キリストの福音の永遠の真理を伝える証人として立つ責任が、皆さん一人一人に与えられています。皆さんの責任は、人々の目を開き、『やみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ[る]』ことです。』(会員との集会、ケニア、ナイロビ、2005年8月4日)

わたしたちの避け所、わたしたちの平安

「わたしたちは非常に複雑な時代に生を受けています。きわめて深刻な問題にも直面しています。教会員の中にも、病氣や経済的な問題を抱えた人、また多くのことに悩み苦しん

でいる人がいます。わたしたちの避け所、平安、幸福は、主の道を歩む中にあるのです。」(オーストラリアのステーキ大会衛星放送, 2005年2月12日)

神殿に参入するふさわしさ

「わたしはすべての父親と夫にチャレンジします。自分が妻や子供たちを神殿に連れて行くふさわしさを保っているか、よく吟味してください。この世のいかなるものをもってしても、神殿参入に代えられるものはないのです。それはどの夫婦でも味わえる最大の祝福です。引き延ばさないでください。悔い改める必要があれば、今日それを始め、神殿推薦状を受けられる資格を得てください。」(会員との集会, チリ, サンティアゴ, 2006年3月11日)

義にかなった生活の模範

「わたしたちは、善良な民として認められつつあります。また、愛と親切心に富む民として、また率先して人々に手を差し伸べ、周囲の人々に祝福をもたらす民として、認識されつつあります。天はほほえんでわたしたちを見ています。わたしたち一人一人が、義にかなった生活を送り、主の御心に添った生活を送ることで、この祝福に報いるようにすべきです。」(ステーキ大会, 合衆国ユタ州セントジョージ, 2005年2月27日)

確固として立つ

「わたしたちは、^{けが}汚れと不道德と問題が山積する世界に暮らしています。それらを超越し、確固として立ち、世のものを顧みないでください。主が望まれるように歩んでください。

わたしたちには提供できることがたくさんあ

わたしたちは、
善良な民として、
また率先して
人々に助けの手を
差し伸べる民として、
認識されつつあります。



ります。まず何が提供できるか考えてください。ほかの人々は神の真の特性を理解してはいません。彼らは4世紀に発せられた古めかしいニケーア信条(訳注——神とキリスト、聖霊を三位一体とする信条)にまだ束縛されているのです。わたしにはその信条が理解できません。しかし、わたしたちには、預言者ジョセフの最初の示現を通じて明らかにされた、神の特性にかかわる完全な知識があります。ジョセフは神にまみえ、神の声を

聞きました。また、御子にまみえ、御子の声も聞きました。そして、御二方に語りかけることもできたのです。ジョセフの心には、神の真の特性に関して、一点の疑いもありませんでした。それは何とすばらしいことでしょうか。聖文にはこう書かれています。『永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります。』(ヨハネ 17:3)

これは偉大で驚くべき賜物です。神についてのこの正しい理解は、わたしたちが世に向かって提供できるものです。わたしたちは神の子供です。それは国籍とも、出生地とも無関係です。髪の毛の色は関係ありません。目の形とも無関係です。わたしたちは皆、神の子供です。神は宇宙全体の偉大な神ではありますが、同時に、わたしたち一人一人の御父でもあられ、わたしたちは祈りをもって御父に近づきます。神はわたしたちの祈りを聞き、それにこたえてくださいます。そのことをわたしたちは知っています。わたしも、皆さんも知っています。……何とすばらしい、驚くべきことでしょうか。』(会員との集会、ロシア、ウラジオストク、2005年7月31日)

福音を^の宣べ伝える

「出て行って、御業^{みわざ}について宣べ伝えてください。この教会に与えられた最初の指示は、出て行って、福音を教えなさいというものでした。それは教会が正式に組織される以前に与えられました。その指示が取り上げられたことはありません。以来ずっとわたしたちから離れたことはないのです。」(宣教師集会、合衆国サウスカロライナ州コロンビア、2004年11月20日)

最後の神権時代

「[神が]この最後の神権時代、すなわち時満ちる神権時代にあつてわたしたちを大いに祝福してくださっているということ



は、実にすばらしいことです。この偉大で最後の時代に、神は、あらゆる権能、あらゆる栄光、あらゆる真理、そしてそれまでのあらゆる神権時代の権威とともに、御自身の業を回復されたのです。……

わたしは、永遠の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛してくださっていることを知っています。また、イエスが神の愛する御子であられ、わたしたちの贖い主、救い主、主、友であられることを知っています。そして、ジョセフ・スミス

が過去も現在も預言者であり、この教会が真実であることを知っています。さらに、これが御二方の業であり、わたしたちに祝福と幸福をもたらすためにこの地上に回復されたことを知っています。」(地区大会、合衆国ユタ州ソルトレーク・シティ、2003年5月4日) ■

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 救い主について語られた最初の三つの話の中から、一つか二つを選んで家族のだれかに声に出して読んでもらう。主やその犠牲、使命について、どのような気持ちを抱いているか、家族に話してもらう。ホームティーチャー自身^{あかし}の証も述べる。

2. ヒンクレイ大管長のチャレンジを含んでいる話を家族に紹介する。預言者から与えられたチャレンジの一つ一つに耳を澄ますよう家族に勧め、どのようなチャレンジか言ってもらおう。その中から家族で一つ選び、一緒に実践するように勧める。

3. 記事の中から絵を1枚選んで、家族に示す。その絵がどういう場面の絵か、どうして大切なのか、また絵から何が学べるか、尋ねる。その絵に関連したヒンクレイ大管長の言葉を読む。最後に自分の証を述べる。

成功は 良い選びから



良い選択をするなら、つまずくことはありません。
(箴言3:21-23参照)

母の冷蔵庫

母は、あまり見かけない黄色の冷蔵庫を使って
わたしたちに何を教えようと
していたのでしょうか。
その冷蔵庫で、母は最も大切なことを伝えようと
していたのだと思います。

エンマ・E・サンチェス・サンチェス

母が亡くなる日までの数日間も、葬儀のときも、父の泣く姿を見た記憶がありません。父は皆を慰めるのが自分の務めであるかのように気丈に振る舞っていました。しかし、埋葬が終わった後のある晩、その古ぼけた冷蔵庫の前で父のむせび泣く姿を目にしました。そのとき父は、母が冷蔵庫に所狭しとはり付けて残していった様々な物を見ていました。その冷蔵庫は、母の生涯を思い起こすもので埋め尽くされていたのです。

両親は結婚したときに中古の冷蔵庫を買いました。あるとき、母は一大決心をしてその冷蔵庫を見慣れない黄色に塗ってしまいました。(その後、床も数点の家具も塗り直し、新品のドレスさえも自分の思った色に染めてしまいました。)しかし、実際にわたしたちがその冷蔵庫の色に気づいたのは、冷蔵庫が壊れて部品交換をしなければならなくなり、冷蔵庫にはり付けてあった物をいったんすべて母が取り去ったときでした。

母はありとあらゆるものをその冷蔵庫にはり付けていたので、本体の色はまったく見えなかったのです。そこには新聞から切り抜いた教訓的な漫画や、名言、父の写真、暗唱聖句、クリーニング店の引換券、新製品の広告、返事を出す予定の手紙、レシピ、買い物リスト、ワードの連絡網、挙げ句の果て

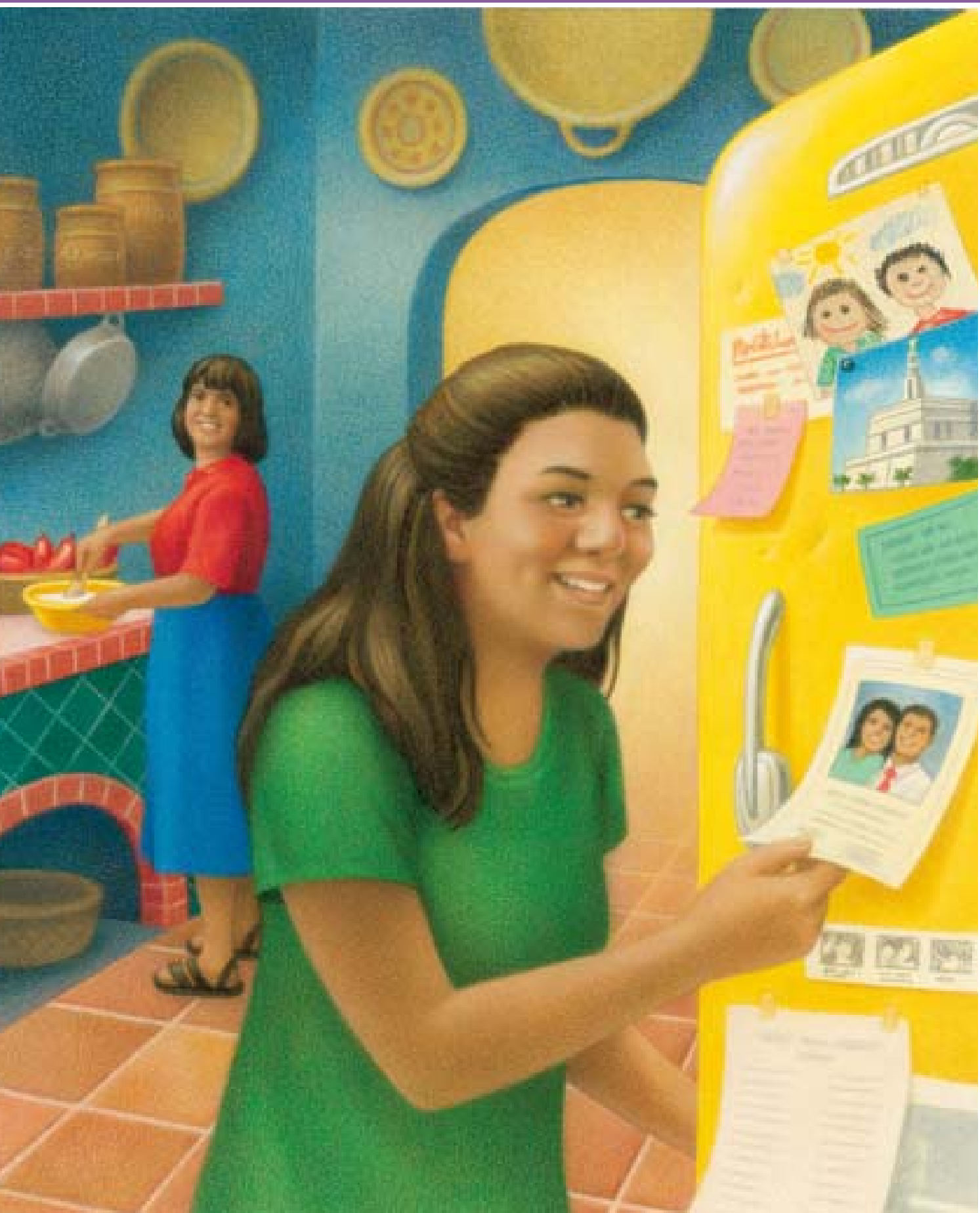
にわたしたちの通信簿まではり付けてありました。子供たちが成長すると、週ごとの役割分担表や、スケジュール、家族への伝言もはり付けることがありました。家には黒板や掲示板がなかったので、福音に関連した絵もはってありました。

母は2月にはその冷蔵庫に家族全員の名前を書いた大きなハートをはり付け、3月には父との結婚式の時の写真と自分の誕生日のプレゼントとして希望するもののリストをはったものでした。父の誕生日が6月だったのでその月には専ら父に関連するものをはりました。家族一人一人の誕生日に、同様のことをしました。また9月にはメキシコの国旗をはり、両親が先祖のことを思い起こす11月には、すでに亡くなった愛する人たちの写真をはっては、その人たちを話題にするきっかけを作ってくれました。そして12月にはキリストの降誕を織り込んだ小さな布を飾り付けていました。

わたしたちが伝道に出ると、その度にその子供の写真をはり、伝道が終わって帰って来るまでそのままにしておいてくれました。母のたった一人の兄弟が亡くなったときは、その兄弟と二人で撮った写真をはり、生涯その写真をはがすことはありませんでした。母は口にすることはありませんでしたが、その写真を感慨深そうに見詰める母を見るにつけ、その兄弟が母にとってどれほど大きな存在であったかをうかがい知ることができました。

母は冷蔵庫を活用して家族を一つにしてくれたのです。

今、わたしの家にも一つの冷蔵庫があります。新しいもので、見慣れない黄色をしているわけではありませんが、家族を一つにし、何かを教える務めを果たしてくれています。今は両親の結婚式の古びた写真とおばの結婚式の写真、そして我が家の幼い子供たちの作った不格好な工作をはってあります。その写真や工作を見る度に、冷蔵庫は食物を冷やすだけでなく、もっと有効に活用する方法がいろいろとあることを教えてくれた母を思い出し、感謝の気持ちでいっぱいになります。■



神 殿 を

南アフリカに住む
末日聖徒の青少年は、
主の宮が最も深い敬意を抱くに
ふさわしい場所であることを
よく知っています。

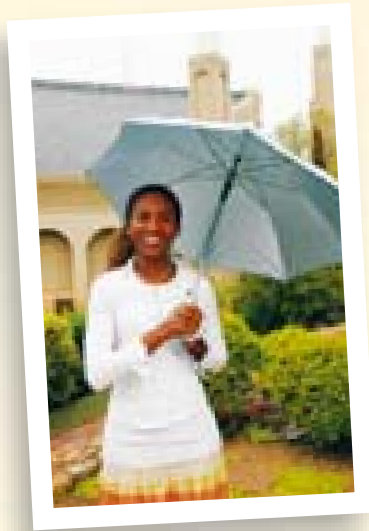
ポール・バンデンバーグ

教会機関誌

ナレディ・ムココゾ姉妹は幼いころから神殿の庭に来ていました。成長した今、彼女はよく神殿に参入しています。神殿は彼女にとって大切な生活の一部であり、心と心のよりどころと言ってもよいでしょう。17歳になるナレディは次のように言っています。「わたしは自分の部屋にヨハネスバーグ神殿の写真をはっています。そうしておけば、自分がいつも清い思いを抱き、御霊が常に自分とともにいてくださると思うからです。」

その日、南アフリカのヨハネスバーグは小雨が降っていましたが、南アフリカ・ヨハネスバーグステーキ、エナーデル支部の青少年たちはナレディも含めて皆うきうきしていて、雨降りのうとうしさを吹き飛ばしてしまうほどでした。彼らは死者のためのバプテスマを受けるために神殿を訪れたのです。ナレディは、「もう一度神殿を見たい。主の御霊を身近に感じたい」と思って参入しました。彼女にとって神殿参入できる日は特別な日です。「神殿に参入することはとても特別な機会ですし、とっておきの時間です。だから服装も振る舞いも普段とは違うものにしなければなりません」とナレディは言っています。

ナレディは神殿が聖なる場所であると心から理解しています。「神殿は主の宮であり、聖なる御霊の宿る場所です。ですからわたしたちは敬虔にしなければなりません。そのためには自分自身を備え、道徳的にふさわしく行動し、自らを清め、敬虔



な態度を心がけるようにしなければならないと思っています」とナレディは言っています。

聖きを主に捧ぐ

神殿は文字どおり主の宮です。実際の神殿にも「主の宮居、聖きを主に捧ぐ」と言う文字が刻まれています。神殿は、地上で主を礼拝する最も聖なる場所です。神殿は聖なる所で、その中で執り行われる儀式も神聖なものばかりです。ですから神殿に参入する人は皆、ふさわしく清くなければなりません。救い主は啓示の中でジョセフ・スミスに次のように約束されました。

「また、わたしの民が主の名によってわたしに一つの家を建て、それが汚されな

いように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。」

まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。そして、そこに入って来る心の清い者は皆、神を見るであろう。」(教義と聖約97：15-16)

それでは、神殿に参入する人はだれでも神にまみえることができるのでしょうか。十二使徒定員会の故デビッド・B・ハイト長老(1906-2004年)は次のように言っています。

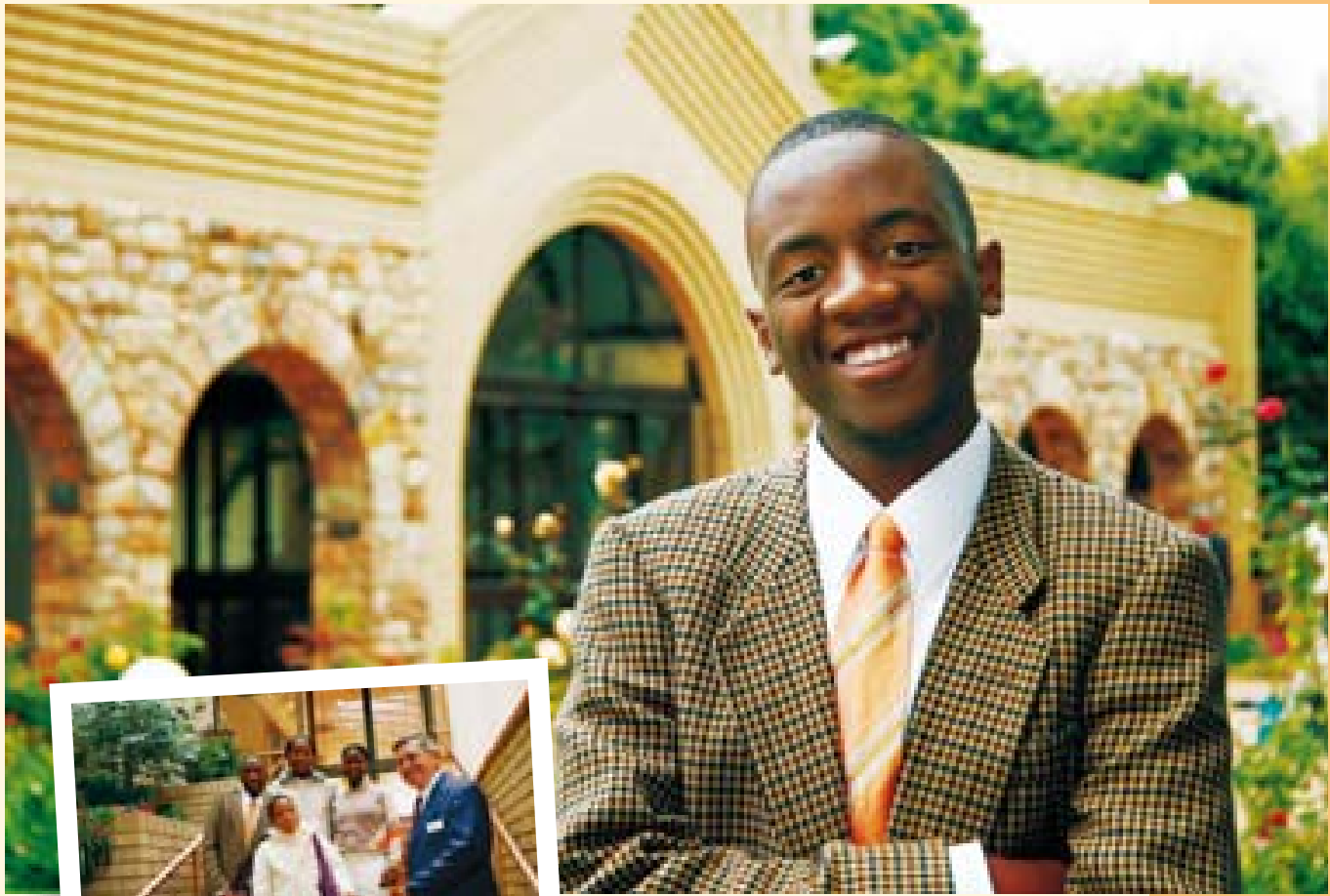
「確かに中には実際に救い主とまみえた人もいます。しかし、辞書を引くと、この『見る』(英文“see”)という言葉にはほかにも多くの意味があることが分かります。例えば、主を知るようになる、主を識別する、主と主の業を認識する、主が大切な存在であることに気づく、主を理解するようになる、などです。

こうした天からの悟りと祝福がわたしたち一人一人に与えられるのです。」¹

ヨハネスバーグ神殿のルイス・グローネワルド神殿会長は、教会の青少年は神殿に参入することによって、その神聖な建物の中で救い主について学ぶと同時に自分自身に関する理解も深めることができると言っています。そして、こう述べています。「神殿は死者のための儀式を行う神聖な機会を与える

尊

ぶ



左ページ——ヨハネスバーグ神殿の外に立つ
レツォアロ・ツミ。

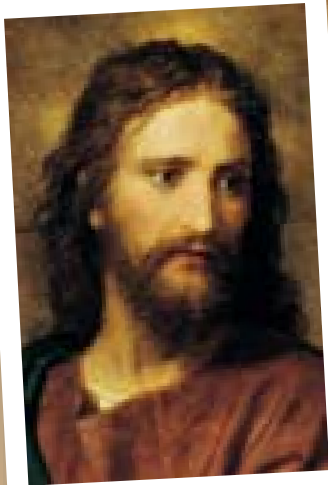
上——ヘンリー・ムコンザは、
皆にとって敬虔けいけんの模範となっている。

挿入写真(左から右へ)——ヘンリー・ムコンザ、
グレース・ンコシ、パレサ・ムココゾ、リンディウェ・
モレイ。ルイス・グローネワルド神殿会長とともに。

だけでなく、青少年にこの世だけでなく次の世でも全き人生を送る備えをさせる場もあります。」神殿で奉仕することによって、わたしたちは多くの祝福を受けることができます。

4つの大なる祝福

グローネワルド神殿会長はこう言っています。「一つ目の祝福として、青少年は神殿に参加することによって、主の宮の中で天の御父と救い主をより身近に感じることができます。」



神殿参入する
青少年は、
主の宮で
救い主を
より身近に感じるという
特権にあずかります。



**最上部——ナレディ・ムココソは
御霊をいつも感じられるように
部屋にヨハネスバーグ神殿の写真をはっている。
上(左から時計回りに)——神殿の庭で
憩いのひとときを過ごすロザンヌ・コックレル、
ビンセント・マイエテ、カイル・ズーマン、
ジミー・プラートジーズ**

これは、神殿は主を知るようになる場所であると語ったヘイト長老の言葉どおりです。

二つ目の祝福は、神殿では自己を忘れて奉仕する機会にあずかることができるということです。グローネワルド神殿会長は、こうした奉仕は、「慈愛を身に付け、キリストの御霊を受ける基となるものです」と語っています。神殿会長はさらに次のように言っています。「青少年がしばしば神殿に参入して死者のためのバプテスマを受けることによって、やがては自分自身のエンダウメントと聖なる結び固めの儀式を受けることにつながればと願っています。こうした儀式を受けることによって彼らは永遠にわたって限らない祝福にあずかれるようになります。」

3つ目の大きな祝福としてグローネワルド神殿会長は、神殿内で行われる儀式を挙げています。「神殿での儀式を受けなければ全き人生を味わうことはできませんし、昇栄することもできません。エンダウメントと日の栄えの結婚は、これらの儀式の中の二つです。エンダウメントは様々な指導と聖約、約束から成り立っていて、わたしたちはそのエンダウメントを受けることにより、義にかなった生活をし、救い主の教えに従うことができるようになります。また、日の栄えの結婚は、夫と妻、そして子供たちを永遠に結び固めるための神殿の儀式です。

4つ目の祝福としてグローネワルド神殿会長は、「神殿は福音のすべての教えを一つにまと

める働きをしている」と説明してくれました。すなわち、青少年が教会で学んだ様々な知識が、神殿に参入することによってさらに確固としたものとなり、一つにつながるというのです。そしてそれらの教えはすべて、イエス・キリストの贖いと救いの計画に基づいているのです。神殿内では「福音の教えを一つの大きな経験として味わうことができます」と神殿会長は言っています。

神殿での平安

「神殿は主の宮なので、わたしたちは敬意を示し、心安らかな状態でいなければなりません。」ロッジウエイワードに集う17歳のビンセント・マイエテはこう言っています。ビンセントは、

同じワードの会員であるロザンヌ・コックレル、ジミー・プラートジーズ、カイル・ズィーマンやそのほかの青少年と一緒に朝早く神殿に参入しました。

14歳のロザンヌは次のように述べています。「わたしは寝ているより神殿に参入する方を選びました。」確かに早起きする価値がありました。友達と一緒に死者のためのバプテスマを受ける方を選んでよかったと彼女は思っています。「人のためになることができました。とてもすばらしい経験になりました。」

17歳のカイルは神殿の周りの美しい庭に目をやりました。早朝の雨にぬれて何もかもしっとりとしています。「ここにはほかのどこに行っても味わうことのできない静寂があります。神殿に参入するために時には多少の犠牲を払わなければならないこともあります。神殿参入はすばらしいことだと思います。ほくも神殿で結婚したいです」とカイルは言います。

20歳になるジミーは次のように語っています。「南アフリカに神殿があるということは、とても大きな意味があると思います。すでにこの世を去った家族に代わってバプテスマを受けるという特別な儀式を受けられるからです。これはわたしたちにとって大きな祝福です。特に、神殿の中では御霊を強く感じられますし、神殿の建物の外にいてもとても平安な気持ちになります。」

敬意を示す服装

エナーデール支部の会員である14歳のパレサ・ムコゾは、神殿に参入するときにはいつもいちばんいい服を着て行きます。「天の御父に敬意を示すためにそうしています」と彼女は言っています。彼女がそのように敬意を示すのは神殿に参入する度にそう感じるからだそうです。「主の宮に足を踏み入れた途端、すべての誘惑から逃れることができるのを感じますし、神殿の中ではあらゆるものが義にかなっていることが分かります。ですから、誤った方向に行く恐れがなくなるのです。」

グローネワルド神殿会長はほほえみながら次のように言いました。「青少年はふさわしい服装で神殿に参入しています。ふさわしい服装とはどんな服装かと言えば、安息日に着るいちばんいい服装です。」つまり聖餐会せいさんに出席するとき身に着けると同じものです。「清楚で、安息日に適した服装せいそ、持っている服の中でいちばんいいものを着て行けばいいんです。それが服装に関する標準です。」

同じくエナーデール支部の会員である18歳のヘンリー・ム



「死者のためのバプテスマに携わる機会にあずかるようにしてください。そして、その神聖な経験をあなたの生活の錨いかりとしましょう。いかなる状況の下にあっても常にその

ようにするならば、ふさわしいときに、主からいただける二つとない特別なクレジットカード(訳注—英語の“credit”には、「信用、信望、名誉」の意味がある)、すなわち主の聖なる宮への推薦状を保持し、そこですべての祝福と特権にあずかれるようになるのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長
「神殿を聖く保つ」
『聖徒の道』1990年7月号, 60

コンザは、両手を組んで立ちながら神殿について話してくれました。ヘンリーはまるで宣教師のようです。彼はずっと伝道の召しを受けるために準備してきました。「敬虔さは、その人の服装や立ち居振る舞いから一目で分かるものです。つまりその人がどういう人物であるかを雄弁に物語っているのです。敬虔さをもし出すような服装をしていれば多くを語る必要はありません。人々はそれらのことから、その人が何を大切にしているかが分かります。」

エナーデール支部に集う16歳のステファニー・マダブもこの言葉にうなずいています。「身だしなみは、とても大切です。神殿はとても崇高な場所だからです。そこは主の宮です。だからわたしたちは主の前に立つような気持ちで、身を整えなければなりません。」

これまでに紹介した青少年たちは、ふさわしい服装で身支度をするのが敬意と敬虔さを示す方法であるとよく理解していることが分かります。グローネワルド神殿会長はこう言っています。「それらはすべて先祖からの偉大な受け継ぎを象徴しています。例えば、白いワイシャツが大事なのではなく、それが清さを象徴していることが大事なのです。きちんと理解をしていない人は、象徴自体を重要視します。白いワイシャツは清さを象徴しています。白いワイシャツを着ることがファッションやスタイルとして大切なのではなく、生ける預言者に心から従いたいという気持ちを体現することに意義があるのです。」

将来に備える

ヨハネスバーグの若い男性と女性の顔からは、心に平安があり、奉仕することに喜びを感じ、自分に自信を持っていることがはっきりとうかがえます。神殿が神聖なものであり、その聖なる宮の中でたくさんの祝福を受けられることを確信している彼らは、ほかの人々にとって義の模範です。

神殿は、南アフリカに住む青少年の生活に祝福をもたらしていることがよく分かります。グローネワルド神殿会長は、次のように約束しています。「青少年は自分たちが特別に祝福された兄弟姉妹であるという意識をはぐくんでいます。彼らはさらに自信をもって人々の中に出て行き、主の業を行おうとしています。今後つらいときも楽しいときもその気持ちを持ち続けていくことでしょう。まさしく主は、神殿において青少年に将来への備えをする機会を与えておられるのです。」■

注

1. 「神殿と神殿の業」『聖徒の道』1991年1月号, 64

なぜ象徴



が使われるのか

主は神殿の中で永遠の真理を教えるために象徴を用いられます。
それは次のような理由があるからです。

神殿における礼拝では、わたしたちにとってあまりなじみのない方法で学習する機会が与えられます。「神殿はどれを取っても皆、学びの家です」と十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は説明しています。「神殿内では、主の方法で教えを受けます。主の方法というのは、ほかの教え方とは異なっています。主の方法は、古代から存在する教え方で、象徴が豊かに使われています。わたしたちは、一つ一つの象徴が意味するものについて深く考えることによって、多くを学びます。」¹

福音の象徴には、物や出来事、行為、教えが使われ、それぞれが霊的な真理を表します。例えば、聖餐^{せいさん}のパンと水はイエス・キリストの体と血を表しています。象徴は一つの教え方として、いにしへのアダム^{あだむ}の時代から使われていました。アダムは、群れの初子

を犠牲としてささげるよう命じられていたのは「御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながた」(モーセ5:7)であると天使から知らされました。アダムが犠牲の象徴を理解するために助けを必要としたのと同じように、福音の至高の神権の儀式を教えるために主が使っておられる「いにしへの豊かな」方法を理解するには、わたしたちにも導きが必要かもしれません。

神殿内で接する意味深長な象徴的表現をいっそうよく理解するために、以下の聖句や、教会の指導者、末日聖徒の学者の言葉が役に立つでしょう。

主はなぜ象徴的表現を用いられるのでしょうか

「見よ、すべてのものにはそれに似たものがある。すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証^{あかし}するために創造され、造られている。すなわち、上の天にあるもの、地の上にあるもの、



象徴は
一つの教え方として、
主がアダムとエバに
教えを授けられた
いにしへの時代から
使われていました。

神

殿内で
着用する
衣服から

神殿で執行される
儀式に付随するもの
装飾に至るまで、
象徴による表現は
わたしたちの真の特質、
昇栄のための
神の計画について
参入者に教えるために、
中心的な役割を
果たしています。

地の中にあるもの、地の下にあるもの、上のものも下のものも、すべてのものがわたしのことを証するのである。」(モーセ6：63)

「象徴は世界共通の言語です。……象徴は言語に彩りと力を与え、そしてわたしたちの理解を深く豊かなものへと導いてくれます。象徴は、筆舌に尽くしがたい概念や感情を、わたしたちに理解できる形へと変えてくれます。象徴は言葉に頼ることなく、気持ちを生き生きと伝えてくれるのです。象徴という言葉は教義上の真理を邪悪な者たちから隠して、神聖なものをあざけりから守ります。同時に、象徴は霊的に強い感受性を持つ者たちに対して真理を明らかにします。

……福音のあらゆる聖約と救いのあらゆる

儀式は象徴によって示されてきました。バプテスマの水に沈められるときから、永遠の結婚の儀式において自分の選んだ伴侶とともに神殿の聖壇にひざまずくときまで、わたしたちが交わすすべての聖約は象徴という言葉によって表されるのです。」²

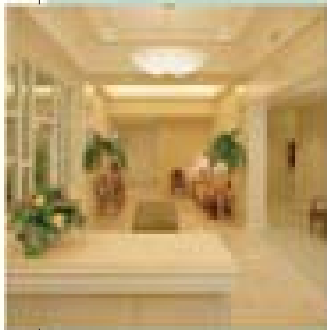
「福音に必須の数々の儀式は贖いを象徴しています。水に沈めるバプテスマは、贖い主の死と埋葬と復活を象徴しています。聖餐を取ることで、バプテスマの聖約を新たにし、救い主の引き裂かれた体とわたしたちのために流された血を思い起こします。神殿の儀式は、主との和解を象徴し、家族を永遠に結び固めます。」³

神殿ではどのような象徴が用いられるのでしょうか

「神殿の中ではすべての人が同じように白い装いをします。白は清さの象徴です。清くない者は神の家に参入する権利はありません。さらにすべての人が統一された服装をするのは父なる神の前においてすべての人が平等であることを象徴しています。富める者も貧しい者も、学問のある者もない者も、地位のある者もない者も、主なる神の前で義にかなって生きているならば、神殿内ではすべて同じ価値のある人であり、同じ座に着くのです。」⁴

「……神殿のガーマントあるいは聖なる神権のガーマントと呼ばれる特別な下着があります。これは神殿のエンダウメントを受けた末日聖徒イエ





わ たしたちは
神殿に
入る前に、
受ける教えの
価値を知り、
理解するために
霊的な準備を
しておかなければ
なりません。
このため、
教会指導者が
わたしたちの
ふさわしさと
準備の状態を
評価するための方法が
定められています。

心に留めて神殿に行くならば、必ずやビジョンは広がり、少しなりとも高められたという気持ちを味わい、霊的な事柄にかかわる知識を増し加えられることでしょう。神殿の教えは壮麗なものです。人の霊を鼓舞するものです。偉大な教師である主は、絶えずたとえを用いて弟子たちを教えられました。少し分かりにくい事柄については、象徴を用いて話されました。」¹¹

「神殿に参入することは、わたしたちが進歩成長することを保証するものではありませんが、進歩成長しようという力強く明確な動機づけを与えてくれます。わたしたちは絶えずこの世の誘惑にさらされています。それならば、天に属する事柄にも絶えず接し、心を向けていくべきではないでしょうか。

神殿活動はこの世からの逃避ではなく、この世を改善する必要性を再認識するとともに、来たるべき世という、より良い別の世界に向けて自分を備えるものなのです。このように、主の家に行くことはこの世にあってこの世のものとならないための手段となります。……

神殿内の教えは、現在の時間と場所を超越させてくれます。時には『測り難い事』(ヨブ42:3)、特別なことを学びます。その意味を悟るにはたびたび参入して祈る必要があります。」¹²

神殿の儀式について、秘密でなく神聖であると言われるのはなぜでしょうか

「現在の神権時代の初期に与えられた一つの啓示の中で、主は、一つの聖なる家を建てること主の御心であることを明らかにされました。そして、主の栄光がそのうえにとどまり、主の現れがそこにあり、主がそこに来られ、心の清い者は皆その家に入って一つの条件を満たすときに主を見ると約束されました。その条件とは『それが汚されないように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さな[い]』ことでした(教義と聖約97:15-16)。この指示に基づいて、聖なる神殿は細心の注意を払って守られています。秘密を守る必要があるからでなく、神殿の中で行われる業が神聖だ

からです。主の標準に照らして『清くない』と考えられる者たち、主の戒めを守らない者たちは排除されています。」¹³

「[神殿の]儀式は、世の中から徹底して秘密にされているわけではありません。……モーセからさかのぼってアダムに至る時代に、儀式の基本を成す概念は俗世から離れることでした。エンダウメントは、人を墮落した、俗的で、拘束された状況から遠ざけるための方法を示しています。……

……大切なのは、わたしがこれらのことを公にしないということです。わたしにとってそれらは神聖に保たなければならないものだからです。侵すべからざる神聖な領域を守らなければなりません。……なぜなら、すべての聖約はわたしが自分と天の御父の間で交わしたものであるからです。」¹⁴

「わたしたちは神殿の儀式について、神殿外では話しません。そう言うと、神殿の儀式に関する事柄はその恵みに浴するに足る、選ばれた少数の人々だけが学び得るものであって、そのほかの人々は決して学べないと思われがちですが、実際はまったくその逆です。わたしたちは神殿に参入する資格を持ち、神殿に参入する準備をするようにと、すべての人々に力を尽くしてお勧めしています。……

神殿で行われる儀式は、単純明快なものです。また、美しく神聖なものです。そして、準備のできていない人々に施すことがないよう、秘密にされています。好奇心を抱くことは準備ではありません。深い関心を寄せることも、それだけでは準備ではありません。儀式を受けるための準備とは、信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受け、確認を受け、ふさわしい生活をし、主の宮に招かれる賓客にふさわしく成熟し、尊厳を備えるという基本的なステップを踏むことなのです。」¹⁵ ■

注

1. 「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 38
2. ジョセフ・フィールディング・マッコンキー, ドナルド・W・バリー, *Guide to Scriptural Symbols* (1990年), 1
3. ラッセル・M・ネルソン「贖い」『聖徒の道』1997年1月号, 41
4. ジョン・A・ウイツォー, “Looking toward the Temple,” *Improvement Era*, 1962年10月号, 710
5. カロス・A・エイシー, 「神殿のガーメント」『内なる決意の表れ』『リアホナ』1999年9月号, 35参照
6. ジョン・A・ウイツォー, “Symbolism in the Temples,” アーチボルド・F・ベネット編, *Saviors on Mount Zion* (1950年), 163
7. ヒュー・ニブレー, “What Is a Temple,” *The Collected Works of Hugh Nibley : Volume 4—Mormonism and Early Christianity*, トッド・M・コンプトン, スティーブン・D・リックス (1987年), 366 - 367, 383
8. トルーマン・G・マドセン, *The Radiant Life* (1994年), 118
9. ジョン・A・ウイツォー, “Symbolism in the Temples,” 168
10. ジェラルド・N・ランド, “Understanding Scriptural Symbols,” *Ensign*, 1986年10月号, 24
11. ボイド・K・パッカー「聖き宮居」『聖徒の道』1992年6月号, 18参照
12. ニール・A・マックスウェル, “Not My Will, But Thine” (1988年), 133 - 134
13. ハロルド・B・リー, *Decisions for Successful Living* (1973年), 137
14. ヒュー・ニブレー, “Return to the Temple,” *The Collected Works of Hugh Nibley : Vol. 12—Ancient History, Temple and Cosmos*, ドン・E・ノートン編 (1992年), 61, 64
15. ボイド・K・パッカー, 「聖き宮居」『聖徒の道』1992年6月号, 17参照

神聖な奉仕



「神殿の内部は、……この世の喧噪^{けんそう}や慌ただしさから隔たっています。主の宮の中は、静けさに包まれているのです。神殿の中で奉仕をする人々は、自分たちが永遠の事柄に携わっているのだということをよく承知しています。全員が白い衣服に身を包み、話す言葉も穏やかで、気高い思いに満たされています。

ここは奉仕の聖域です。この神聖な宮の中で行われる業の大部分は、すでに死のとばりのかなたへ行ってしまった人々のために身代わりで執行されるものです。わたしはこの業に比肩できる業をほかに知りません。神の御子は、全人類のために身代わりの犠牲となりました。死者のための業は、わたしの知っているほかのどの業にも勝って、この主の犠牲に近い業なのです。すでにとばりのかなたにいる人々がこの神聖な奉仕から恩恵を受けたとしても、わたしたちは感謝の言葉を期待してはいません。この業は、今生きている人々が、すでに亡くなった人々のために行う奉仕であり、自己を捨てるという点では、いわば奉仕の真髄とも言える活動です。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
「ソルトレーク神殿」
『聖徒の道』1993年11月号, 5-6

神殿がもたらす この上ない平安

会員たちが神殿参入を通して得た平安を分かち合っています。

神殿結婚の喜び

わたしたちは二人とも子供のときから、神殿結婚を望んでいました。二人とも、いつか神聖な神殿へ入れるようにと準備をし、ふさわしさを保ってきました。結婚を決めると、大きな祝福が訪れました。わたしたちが中国香港神殿へ行けるように、別の夫婦が助けてくれたのです。インドネシアにある家から遠く離れた香港神殿で、わたしたちは2004年2月17日に結び固めを受けました。

祭壇の前にひざまずき、二人の愛が永遠に続き、現世でも来世でも永遠に結ばれるという保証を得たとき、大きな喜びを感じました。神殿の祝福を経験できたことに感謝しています。先祖のためにバプテスマを受けられること、そして、先祖もエンダウメントを受け、永遠の家族として結び固められることに感謝しています。神殿で儀式を行う喜びに代わる幸福は、ほかにありません。

インドネシア
エディ・ロチャディ、リサ・ロチャディ

この世から遠く離れて

アルゼンチンに住んでいたとき、ブエノスアイレス神殿へ二度行きました。

一度目は、自分のエンダウメントを受けるため、二度目は死者のための儀式を行うためです。神殿に参入したときに感じた気持ちを言葉で表すことはできません。ただ言えることは、神殿にいるときには、この世からとても遠く離れた気持ちがするということ、そして、また神殿へ入ることを思うと、とても幸せになるということです。聖霊を身近に感じ、そして、聖霊の愛と慰めを感じられることを証します。御父は、福音と預言者を、わたしとわたしの兄弟姉妹のために与えてくださり、そのことによって愛を示してくださいました。その愛を確かに知っています。

イスラエル
ノーマ・ロドリゲス

驚嘆すべき祝福

わたしは、カリフォルニア州サンディエゴで、夫と二人の幼い息子と一緒に住んでいました。そのころは、毎週神殿へ参入するというすばらしい機会に恵まれていました。あるとき、他界した姉のために神殿の儀式を行っている、初めて儀式を受けているような気持ちがしました。わたしは目を大きくあけて、そこで学んだすべてのことを吸収しました。わたしの心は教

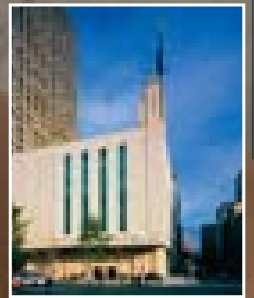
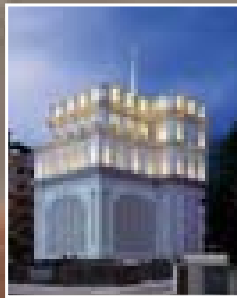
えられていたすべてのことに渴望していました。神殿の儀式の中で姉とその子孫に約束された祝福について考えると、思わず息をのみました。そのときわたしが感じた喜びと感謝は、とうてい言葉で表すことはできません。人目をはばからずに泣きました。喜びの声をあげたい、会う人皆を抱きしめたいと思いました！

更衣室へ戻ると、思わず神殿宣教師を抱きしめて、驚かせてしまいました。彼女にその気持ちを伝えました。亡くなった人に、文字どおりの意味で永遠の真理をもたらす道具となれたことを、わたしは非常に驚きました。

フィンランド
リトバ・ホッカネン

神殿の中の奇跡

2002年8月、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が不意にニューヨーク市を訪れ、わたしたちにこう言いました。「本日、皆さんに発表したいことがあります。2年後に皆さんの神殿が建ちます。わたしもここへ、神殿を見に来たいと望んでいます。」時は流れ、わたしたちの期待はふくらみました。ついに、オープンハウスの時期が発表されまし



た。2004年5月の初旬です。わたしは目に入ったすべてのボランティアリストに名前を書きました。職場の休暇を使わずに残しておいたので、11日間続けて神殿で奉仕をすることができました。

わたしは少人数の訪問者を連れて、神殿内を順路に従って案内するガイドの奉仕をしました。案内して回る度に、御霊を感じました。最大の喜びは訪問者から感想を聞くことでした。杖をついていた格幅のよい男性のことが、強く印象に残っています。彼はツアーの後で、目を輝かせてこう言いました。「これほど平安な場所があるとは夢にも思っていませんでしたよ。」神殿のオープンハウスの期間中、このような奇跡がたくさん起こりました。多くの人が心を打たれ、想いにふけり、神殿内にあふれる特別な御霊を感じました。

ある日、チリ出身の若い婦人に会い

ました。彼女は神殿のオープンハウスのために、座席の案内係をしていました。とても張り切って手伝っていました。話を聞くと、アメリカには観光目的で数週間滞在しているだけで、まもなく国へ帰るのだと言います。いつ教会員になったのか尋ねると、驚いたことに、まだバプテスマを受けていないと言うのです。

わたしがあ然としているのに気づいたので、彼女はそれまでのいきさつを話してくれました。アメリカでの休暇2日目に、神殿のオープンハウスの記事を新聞で読み、好奇心にかられて行ってみようと思ったこと、神殿内を歩きながら案内を聞いているうちに、そのすばらしさと静けさに大変感動し、涙をおさえられなくなったこと、神殿内を見て歩いた後、教会についてもっと教えてほしいと宣教師に頼んだこと、レッスンの後、バプテスマを受

ける決心をしたこと、休暇でここへ来た彼女のために、主が福音を聞く道を備えてくださったこと、そして、まだ教会員になっていないにもかかわらず、オープンハウスの案内係として働かせてほしいと頼んだことを!

疑いもなく、この神殿で奇跡が続いています。亡くなった先祖のために身代わりのエンダウメントやバプテスマを受ける度に、また愛し合う若いカップルがこの世と来世にわたり永遠の結び固めを受ける度に、奇跡が起きているのです。ニューヨーク州マンハッタン神殿は、奉獻される前でさえ、すでに御霊が宿っていました。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこのように述べています。「ここは光の場所であり、平安の場所であり、愛の場所であり、永遠の事柄を扱う場所です。」■

メキシコ
カルロス・ゴンザレス

質疑応答

「友人の女の子はひどく落ち込んでいるようで、自殺さえ考えているのではないかと心配です。どうしたらよいでしょう。」

『リアホナ』からの提案

あなたの友人が置かれている状況は深刻です。あなた一人では対処できません。彼女は主の助けに加えて、専門家の助けが必要です。それには、カウンセリングや薬物療法も含まれます。

うつ状態の人は希望を失い、頼れるもの何もないと感じるため、助けを求めることを躊躇します。たとえ彼女から口止めされているとしても、助けになってくれる人に話すことは、あなたにできる最善のことです。彼女の両親には、少なくとも話してください。医師、学校カウンセラー、ビショップあるいは支部会長から助言を得ることもできます。もし彼女が自殺をほめかしているのなら、すぐにでも、そのことを伝える必要があります。

助けを受けている間も、彼女と仲よくしてください。うつ状態の人は、自分には価値がないと考える傾向があります。ですから、あなたが気にかけていることを知らせ、ほかにも多くの人が気にかけているということを思い出させてください。彼女の長所について心から話してください。楽しいことや、高められる活動に誘ってください。一緒に奉仕をするのは特に効果的です。ほかの人に心を向けることができ、身体を動かすことで気分も高揚します。何を

本人の両親、医師、カウンセラー、神権指導者など、助けになってくれる大人にできるだけ早く話してください。

よい友人であり続けてください。一緒に過ごして、良い聞き手になるのです。

彼女が大切な存在であることを伝えてください。あなたが気にかけていることを伝えてください。助けを受ければ、気持ちが落ち着くことを伝えてください。

このテーマについてもっと多くの情報を得るには、ウェブサイト www.LDSFamilyServices.org をご覧ください。

するのが彼女にとっていちばんよいかわかるよう、導きを祈り求めてください。

あなたの友人は、生活に目標がないと思って落ち込んでいるのかもしれませんが。しかし、天の御父はわたしたち一人一人のために特別な計画を備えておられます。わたしたちを地上へ送られたのは、喜びを得て、試練を乗り越え、目的を果たすためです。この証を彼女に分ち合いましょう。そして、適切な助けを受ければ、やがて人生を楽しむことができるようになるという希望を持てるように助けてください。

幾らか心配があるのは自然だということ思い出させてください。十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長は、こう教えています。「人生に困難はつきものです。ある程度の心配や意気消沈、失望、失敗はごく自然のことです。……人生で苦勞することには大きな目的があるのです。」¹しかし、悩んでばかりいて、ほんとうに大切なことを見失ってしまうのは、自然なことではありません。問題を乗り越え、問題があるからこそ一層強くなろうと努めることがいちばん大切です。

また、助けを得る方法はたくさんあることを、思い出させてください。気分が沈むのは、精神または情緒の調子が崩れている証拠です。体



読者からの提案

調が崩れたら医者に診てもらうように、専門家に相談して、うつの特徴を理解し、対処する方法を覚えてもらいましょう。彼女が教会員でも、教会員でなくても、霊的な助けを得ることができます。祈りや神権の祝福により、また聖文を読むことにより、慰めを受けることができるのです。主は彼女を愛しておられ、平安の祝福を与えてくださることを証してください(ヨハネ14：27参照)。

注

1. 「主の方法によって情緒的な問題を解決する」『聖徒の道』1978年10月号、148



わたしなら、彼女と一緒に過ごして、彼女の命がわたしにとって、そして天のお父様にとって、大切だということを知ってもらいます。また、青少年の活動と一緒に参加して、沈んだ気持ちから解放される方法がほかにもあることに気づいてもらいます。そうすれば、新しい友人が見つかるかもしれません。最後に、わたしが彼女を助けられるように天のお父様に祈ります。

フィリピン
ライアン・S, 17歳



今こそあなたが助けてあげる時です。彼女のことを心配しすぎないで、普通に話しかけて、良い聞き手になること。わたし自身も、気分が沈んだり、いらいらしたり、怒ったり、悲しくなったりしますが、そんなときに、いつもそばにいて愛を示してくれる教会の友人たちに感謝しています。わたしは自分が愛されていることを知っています。なぜなら、みんながいつもわたしの話に耳を傾けてくれるからです。たいてい、だれかに話してしまうと、問題についても、自分自身のことについても、ずっ

と気持ちが落ち着きます。ですから、支えになって、励ましてあげてください。彼女が自信を取り戻せるように助けるのです。また、彼女の信仰が深まり、もっと幸福になれるよう、天のお父様に祝福を祈り求めてください。

台湾

ユー・ミン・L, 16歳



あなたには彼女のすばらしい未来が見えると伝えてください。また、天のお父様からとても愛されていること、お父様には彼女のための計画があることを伝えてください。彼女には、現世へ来る前にお父様から与えられた務めがあります。そして、それを行い、お父様の御心を成就するのは彼女だけなのです。彼女から福音を聞き、彼女の温かい愛を受けるのを待っている霊がたくさんいます。わたしなら、彼女が神の愛する娘の一人であることを特に話してあげたいと思います。

インド、アンドラプラデーシュ州

エリザベス・B, 20歳



もし彼女がほんとうに自殺するのではないかと思うなら、ビショップや支部会長、または信頼できる大人など、だれかに助けを求めてください。次に、彼女の家族や友人たち、そして天のお父様が、彼女のことを気にしていることを伝えてください。彼女がそのような愛を感じるように祈ってください。また、彼女を助けられるように導きを祈り求めてください。そして、話しかけ、いつも耳を傾けることを伝え、憂うつな気持ちを振り払えるように、気持ちを高揚させる活動を一緒にしてください。

カナダ、オンタリオ州

オリビア・C, 19歳



第一にすべきことは、だれかに話すことです。よく知っている、信頼できる大人に話してください。何をすべきかを教えてくれるでしょう。あなたも助けることができます。口を挟まずに、ただひたすら話を聞いてあげることがいちばん良い場合があります。そのようなとき、人はただ話を聞いてもらいたいものです。



「わたし自身も絶望感と戦ったことがあります。」

しかし、わたしたちは決して一人で戦うのではないということを、自分自身の経験や、会った人々から学びました。わたしたちは決して見捨てられてはいません。心の中には善と力と自信がわき出る泉があり、信頼して耳を傾けるなら、勇気づけられ、癒されるのです。生きる力だけでなく、人生を愛する力がわいてきます。」

キャスリーン・H・ヒューズ
中央扶助協会会長第一顧問
「[生ける水]による祝福」
[リアホナ]2003年5月号, 13

カナダ、ケベック州

アレクサンドラ・M, 17歳

わたしもうつになったことがあるので、自分の経験から助言します。あなたがいつも彼女を裁かず、話を聞いてあげてことを伝えてください。また、あなたにとって彼女が大切な存在だということを伝えてください。わたしにとっていちばん助けになったのは、話を聞いて、いつでも助けてくれるルームメイトがいたことです。神権の祝福も助けになりました。

匿名



彼女の家に行って、遊びに連れ出してください。楽しい気持ちになるように、友人たちから受け入れられていると思えるように助けてください。また、彼女のために祈ってください。

ときには一緒に祈って聖典を読んでください。教会の集会や活動と一緒に行ってください。あなたにとって、そして、天のお父様にとって、彼女がどれほど大切であるか教えてください。霊的にも身体的にも調子を整えるように励ましてください。

ガーナ

グレース・A, 20歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

質問

「時々、母とうまくいかないことがあります。言うべきでないことを言い合って、結局、気持ちを傷つけてしまいます。母を愛せるように祈っていますが、良い気持ちはあまり長く続きません。母との関係を改善するにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください

氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可証とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先— Questions & Answers 3/07

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレス—

liahona@ldschurch.org

2007年3月15日必着で送付してください。■

イエス・キリストに対する 証を強めることにより、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

証を強めるにはどうしたらよいでしょうか。

アルマ32：27——「わたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。……その望みを育ててゆけ。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老——「自分の生活を正直に吟味してみてください。皆さんの証の強さはどの程度でしょうか。ほんとうに生活を支える力となっているでしょうか。それとも、自分が学んだ事柄が真実であると願っているだけで

しょうか。……皆さんがイエス・キリストとその教えを信じる信仰、そして……無限の力を主がお持ちであることを信じる信仰を行使するときに、証は強められます。……祈りの静かな時間を過ごし、……深く考えることにより、力強い証は徐々に培われます。……強い証は、教えに教え、教訓に教訓を加えることによって

与えられます。力強い証には、信仰、時間、常に従順であること、そして喜んで犠牲を払うことが求められるのです。」（「強い証の持つ力」『リアホナ』2002年1月号、100-103参照）

管理ビショップリック第二顧問 キース・B・マクマリンビショップ——「証は個人の努力なしに得ることはできません。知りたいと望み、研究して学び、ふさわしくなるよう生活し、証を得るために祈らなければなりません。そうするときに、謙遜さと信仰のうちに知識が与えられ、この知識とともに、すべてがうまくいくという心地よい確信と、物事を成し遂げるための内なる強さがもたらされるのです。」（「主イエスを思うとき」『リアホナ』2004年5月号、33）

証はどのように神の御心を行うように導くでしょうか。

モロナイ10：32——「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みに

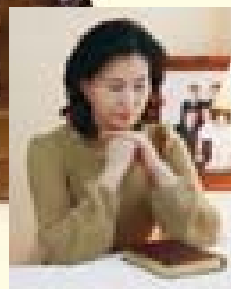
より、キリストによって完全になることができる。」

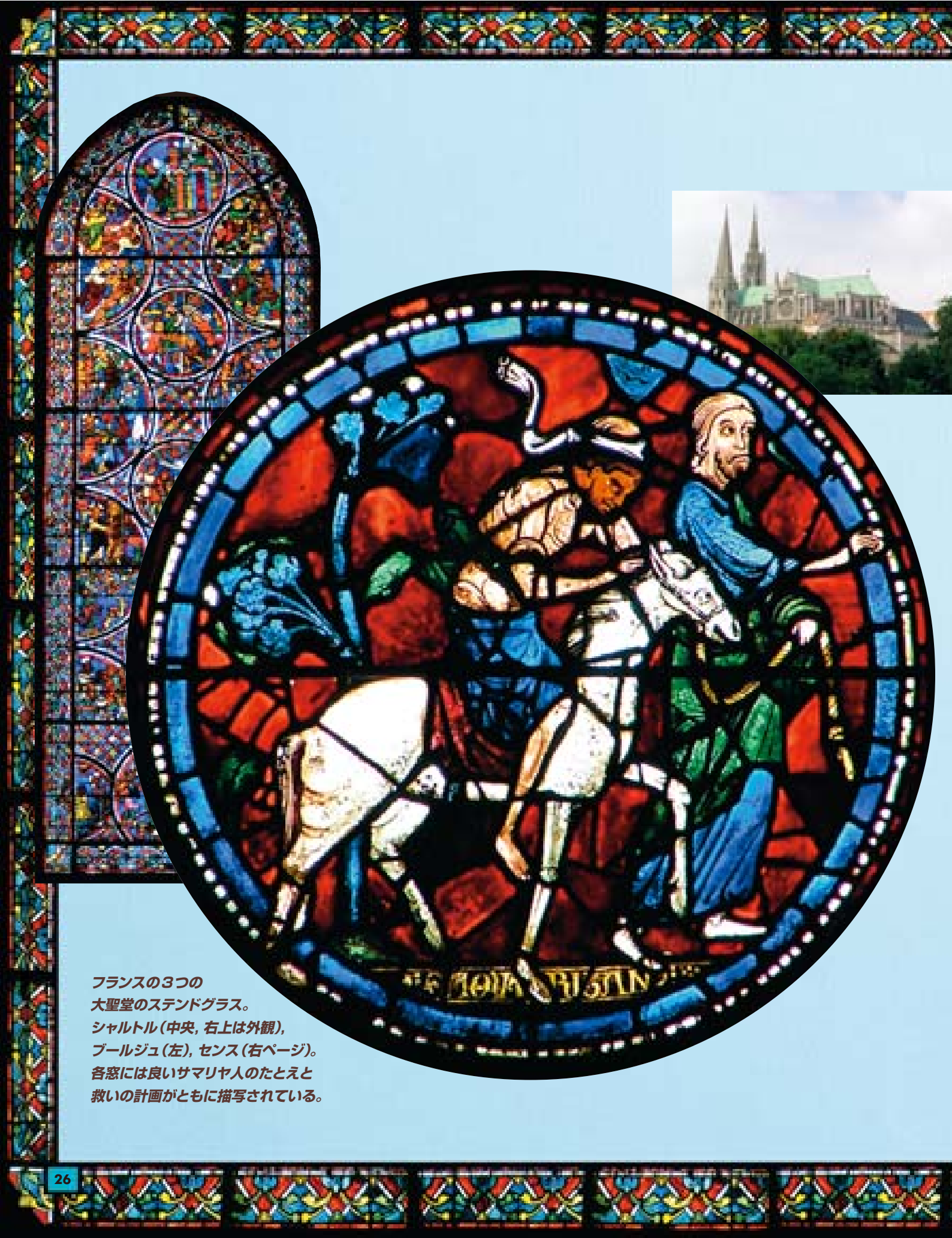
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老——「福音が真実であることを確信するだけでは不十分です。福音によって心が変わることを目指して行動し、考えなければなりません。世の教育機関は、わたしたちにある事柄を知らなさいと教えます。それとは対照的に、イエス・キリストの福音は、わたしたちにある特質を身に付けた者になりなさいとチャレンジするのです。……単に善を行うだけでは到達できません。正しい動機すなわちキリストの純粋な愛という動機に基づいて行う必要があります。……慈愛、すなわち「キリストの純粋な愛」（モロナイ7：47）は、

人の行動ではなく、人の状態です。慈愛を身に付けるには、改心へとつながる行動が常に必要とされます。こうして人は慈愛を身に付けた者となるのです。」（「主の望まれる者となる」というチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号、40、42参照）

というチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号、40、42参照）

中央扶助協会第二顧問 アン・C・ビングリー——「わたしたちは回復されたイエス・キリストの福音の中で喜び合い、救い主についての、また贖いについての証があるという祝福に感謝し合えることでしょう。神の御手に使われる者となるのは簡単ではなく、霊的な成長を促すものです。だからこそ、それぞれが栄光に満ちた道をたどりつつ、現世の旅を豊かにすることができるとは。わたしはそう確信しています。」（「自分に対する主の御心を知る」『リアホナ』2005年11月号、114参照）■





フランスの3つの
大聖堂のステンドグラス。
シャルトル(中央, 右上は外観),
ブールジュ(左), センス(右ページ)。
各窓には良いサマリヤ人のたとえと
救いの計画がともに描写されている。

良い サマリア人 忘れられた象徴



ジョン・W・ウェルチ

ブリガム・ヤング大学
J・ルーベン・クラーク法科大学院教授、
『BYUスタディーズ』(BYU Studies)誌編集長

イエス・キリストが教えられた話の中で、最も影響力があるものの一つは良いサマリア人のたとえです。イエスは、「先生、何をしたら永遠の生命が受けられますか」と尋ねた人に、このたとえを話されました。イエスはまず、彼に次のようにお尋ねになりました。「律法にはなんと書いてあるか。」

すると彼は、申命記第6章5節とレビ記第19章18節を引用して答えました。「『心をつくし……て、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります。」

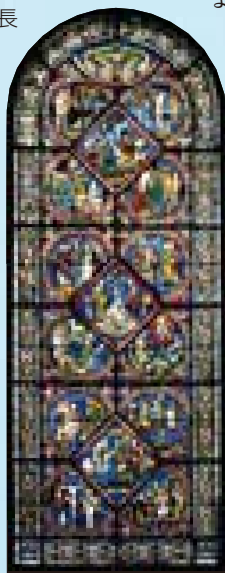
イエスが「そのとおりに行ないなさい。そうすれば、いのちが得られる」と約束なさると、その男は「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」と重ねて問いました。良いサマリア人のたとえは、この男の質問に対する答えとしてイエスが語られたものです。(ルカ10:25-35参照)

深い意味

救い主がしばしばたとえを用いて教えられました。たとえには「耳のある」人しか理解できない、深い意味が込められているからです(マタイ13:9)。預言者ジョセフ・スミスも、信じない者には救い主のたとえは理解できないと断言しています。「しかし、弟子たちに対しては、[主は]分かりやすく[たとえを]解説してくださる」ので、わたしたちが「目を開けて無心に読みさえすれば」たとえを理解できると、預言者は教えています。¹ この原則を知れば、良いサマリア人のたとえに込められた象徴的メッセージに思いを巡らしたくなります。イエス・キリストの福音に照らしてみると、この優れた物語には、近代の読者がほとんど気づかない方法で、救いの計画が見事に要約されていることがわかります。

このたとえの表面的な意味は、現実的かつ劇的であることは明らかですが、キリスト教の長い歴史を通じて、人類の墮落と救いを象徴する感動的な寓話としても捉えられてきました。そのような初期のキリスト教的解釈は、フランスのシャルトルにある11世紀建立の有名

このたとえは
人類の
墮落と救いを
象徴する
印象的な比喩
と見ることができます。





イエスは、
この人が
ありふれた
所ではなく、
エルサレムから
下って行った
と言っています。
神殿のある街という
神聖さゆえに、
初期のクリスチャンは、
当然のごとく、
この人は
神の前から
下って行った
と考えました。

な大聖堂に描かれています。美しいステンドグラスの窓の上の方にはエデンの園から追放されるアダムとエバが、下の方には良いサマリア人のたとえが、対を成して描かれています。このことから、「キリストが教えたこのたとえが、中世社会においてどのように解釈されていたか」²を知ることができます。この窓を見たとき、アダムとエバの背きと良いサマリア人のたとえにはどのような関係があるのか知りたいたと思いました。

わたしはすぐに答えを見つけました。³ この比喩的解釈の根元は、初期のキリスト教にまでさかのぼります。紀元2世紀に、フランスのエイレイナオスとアレクサンドリアのクレメンスは、良いサマリア人は罪に傷つき墮落した人を救うキリスト自身を象徴しているという点で意見が一致していました。数年後、クレメンスの弟子オリゲンが、この解釈は初期のクリスチャンたちから受け継いだものであると説明してい

ます。その解釈によると、比喩は次のようになっています。

「下って行く人はアダムである。エルサレムはパラダイス、エリコはこの世である。強盗たちは悪の力である。祭司は律法、レビ人は預言者たち、サマリア人はキリストである。傷は不従順、家畜は主の体であって、中に入ることを望むすべての人を受け入れる〔宿屋〕は教会である。……〔宿屋の〕主人は教会の管理をまかされている教会の頭である。さらに、サマリア人が戻って来ることを約束しているのは、救い主の再臨を示している。」⁴

このような比喩的解釈は、イエスの古代の弟子たちだけでなく、初期のキリスト教会で、事実上普遍的なものとして教えられていました。この解釈の唱道者には、エイレイナオス、クレメンス、オリゲンがいます。また、4、5世紀においては、コンスタンティノープルのクリュソストモス、ミランのアンブロシウス、北アフリカの 아우グスティヌスもこの解釈を唱導しました。この解釈は、フランスのブルジュおよびサンスの大聖堂のステンドグラスに最も完全な形で残されています。

救いの計画の予型と影

聖文の意味を思い巡らせることにより、読者は多くを得ることができます。なぜなら聖文は、特にイエス・キリストについて^{あかし}証しているからです(ヨハネ5:39)。良いサマリア人のたとえはキリストについて証しています。このたとえは、救いの計画、^{あかな}贖いを可能にする救い主の愛、わたしたちが永遠の命を受け継ぐためにたどる旅路について教えています。エルサレムからエリコへ下って行った男の物語というだけでなく、神のもとから地上に降りてきた全人類についての物語として読むこともできます。その意味は、末日の預言者たちによって回復されたイエス・キリストの福音の光の中で、より鮮明になります。

では、物語を一部分ずつ考察してみましょう。

ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもに襲われた。

ある人。初期のクリスチャンは、この人をアダムに重ね合わせました。古代の言語が、近代の翻訳よりもこの関連性をはっきりしていたかもしれません。ヘブル語では、アダムという言葉は「アダム」という固有名詞だけでなく、「人、人類」および「複数の人」を意味していました。⁵ つまり、アレクサンドリアのクレメンスがこのたとえの中で強盗に襲われた人を「我々すべて」であると見なしたのは正しかったのです。確かに、わたしたちは皆、この世に下って来たアダムとエバであり、この世の危険と浮き沈みを経験しています。すなわち「アダムにあってすべての人が死んでいる」のです(1コリント15:22)。

下って行った。初期のクリスチャンとして多くの記述を残したクリュソストモスは、この「下って行く」という意味を、「アダムがエデンの園からこの世に下っていくこと、栄光から俗世に、不死不滅から死すべき命に下って行くこと」であると考えました。ルカによる福音書第10章の話からは、男が旅に伴う危険を知りながらも、自分の意思で下って行ったことが読み取れます。エリコへ行くようにと、だれからも強制されていません。イエスの時代の人々は、整備の行き届いていない道を旅するのがどれほど危険であるかをよく知っていました。それでもこの旅には、危険を冒すだけの価値があると、男は感じていたようです。⁶

エルサレムから。イエスは、この人がありふれた所ではなく、エルサレムから下って行ったと言っています。神殿のある街という神聖さゆえに、初期のクリスチャンは、当然のごとく、この人は神の前から下って行ったと考えました。

エリコに。エリコは当然この世のことであると考えられました。海拔マイナス825フィート(250メートル)のエリコは、地上で最も低い所に位置する町です。冬が温暖なために、この世的な楽しみを提供する地域として発展し、ヘロデはそこで休暇を過ごすために、贅を尽くした宮殿を建設しました。しかし、注目すべきは、たとえの中の旅人が強盗に襲われたのはエリコに着く前だったことです。彼はエリコに続く道を下ってはいたものの、まだ谷底には達していませんでした。

襲われた〔訳注——「襲われた」に相当する欽定訳の英語

“fell”には「墮落した」の意もある〕。ここでは、墮落によって受けた死すべき状態と個人の罪深い状態について暗示しているのが明らかです。「まことに、すべての人は……墮落し、迷った状態にある……。」(アルマ34:9)

強盗ども〔訳注——「強盗ども」に相当する欽定訳の英語“thieves”は「こそ泥」の意である〕。初期のクリスチャン記述家は、こそ泥(または強盗)を悪魔とその軍勢、悪霊、あるいは偽教師であると解釈していました。ルカがギリシャ語で「強盗」を意味する言葉を使っていることから、これが行きずりの犯行でなかったことが分かります。旅人を狙い襲ったのは、周到な計画を立てた悪質な追いはぎ集団だったのです。

その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。

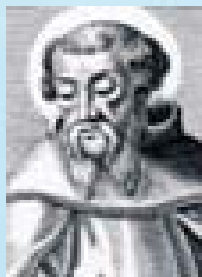
着物をはぎ取った。初期のクリスチャンは、ここでイエスが重要なことを述べているのを察しました。オリゲンとアウグスティヌスは、旅人が着物を失ったのは、人類が不死不滅と清廉さを失った象徴だと解釈しました。クリュソストモスは「不死不滅の衣」あるいは「従順の衣」を失ったと述べています。アンブロシウスは、旅人は「我ら[全員]が〔神から〕与えられた霊的な恵みの衣をはぎ取られた」と語っています。

襲撃者たちの狙いが旅人の着物だったことは明らかです。旅人が持ち合わせていたかもしれない富や品物については一言も触れていないからです。何らかの理由で、強盗たちの興味の対象は彼の着物のようでした。それは、聖地から運ばれてきたものであり、彼らにとって羨望的であり、奪い去りたいものでした。

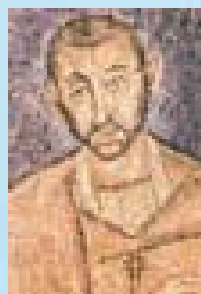
傷を負った。この言葉が象徴するものは、人生の苦難、心の痛み、罪悪の結果被る苦痛でした。確かに、心の敵は、傷跡を残します(モルモン書ヤコブ2:8-9参照)。罪には現実の結果が伴うのです(アルマ41:10参照)。

半殺しに。強盗どもは旅人を文字通り「半殺しにしたまま」逃げ去りました。この部分の詳しい描写は、第一の死と第二の死の象徴であると考えられます。人は墮落し、罪を犯すようになり、第一の死を経験し、死すべき存在となりました。しかし、第二の死、すなわち永遠に神から切り離されることは、まだ回避できる可能性があるのです(アルマ12:32-36参照)。

するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、



初期の
クリスチャン
記述者たち、
エイレナイオス(上)、
クレメンス(右上)、
アンブロシウス(右)



この人を見ると、向こう側を歩いて行った。同様に、レビ人もこの場所にさしかかっていたが、彼を見ると向こう側を歩いて行った。

たまたま。ユダヤ教の祭司の登場は、旅人を意識的に捜した結果ではなく「たまたま」でした。彼がそこに現れたのは、だれかが計画したからではありませんでした。

ひとりの祭司……同様に、**レビ人**。初期のクリスチャン解説者は皆、祭司はモーセの律法を象徴していると考えました。彼らによると、問題は、旧約聖書の神権者が襲われた人を助けようとしなかったことではなく、モーセの律法に旅人を救う力がなかったことでした。確かに、モーセの律法は将来起こる贖いの予型と影にすぎず、贖いの完全な効力をもっていませんでした(モーセ3：15-17参照)。

レビ人は、旧約の預言者であると解釈されていました。この預言者たちの言葉を成就するために主が来られたのです(マタイ5：17；3ニーファイ15：2-5参照)。位の低い祭司であるレビ人は、神殿でこまごまとした務めを果たしていました。少なくとも、このレビ人は助けようと思いました。彼はそばまで「来て」見たのです。助けたいと思ったのかもしれませんが、自分にはその資格がないと思直したのかもしれませんが。また、死にかけた人を救う権能は、彼にはありませんでした。

ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほしいをしてやった。

サマリヤ人。初期のクリスチャンの記述家たちは皆、良いサマリヤ人がキリストを表しているという点で意見が一致していました。クリュストモスは、「サマリヤ人がユダヤ出身でないと同様、キリストもこの世の者ではない」ことから、サマリヤ人がキリストを象徴するのは適切であると示唆しています。

エルサレムでイエスの話を聞いていた人たちは、救い主が御自分のことを語っていることに気づいていたかもしれません。エルサレム在住のユダヤ人の中には、イエスを「あなたはサマリヤ人……と、わたしたちが言うのは、当然ではないか」(ヨハネ8：48)と言って侮辱し、拒む人もいました。ナザレがサマリヤの北の谷の向こうに位置していたので、二つの

町は一つに見なされやすかったのです。サマリヤ人が最も卑しい民だと考えられていたように、メシアについても「侮られて人に捨てられ」「尊ばれない」と預言されていました(イザヤ53：3参照)。

旅をして。このサマリヤ人(キリストを象徴する)は、助けを必要としている人々を意図的に探していたと考えられます。聖文には偶然行き合わせたとは記されていません。オリゲンは「彼は死にかけている人を救い、介抱するために出かけて行った」のだと記しています。救い主は「世に贖いをもたらす」という目的を持って来られたのです(3ニーファイ9：21)。

気の毒に思い。これはキリストの純粋な愛を示す重要な言葉です。ギリシャ語では、心の底から深い同情を感じたという表現になっています。新約聖書では、この言葉は、著者が神の深い憐れみの心を表現したいときにのみ使われています。これは、無慈悲な僕のとえの中で大切な言葉として出てきます。そのたとえでは、主人(神の象徴)が「あわれに思っ[た]」とあります(マタイ18：27)。また、放蕩息子^{ほうとうこ}のたとえでは、戻ってきた息子に気がついた父親(再び神の象徴)が「哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した」と記されています(ルカ15：20)。同様に、サマリヤ人は神としての憐れみを持つキリストを象徴しています。キリストは「肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」(アルマ7：12)苦難を受けられたのです。



良いサマリヤ人のたとえの中の象徴

象 徴	初期クリスチャンの解釈
良いサマリヤ人	イエス・キリスト
被害にあった旅人	罪に傷ついた人
エルサレム	パラダイス
エリコ	この世
祭 司	モーセの律法
レビ人	預言者
家 畜	キリストの体
宿 屋	教会
宿屋の主人	教会の長

傷にほうたいをしてやった。包帯は愛と信仰と希望を象徴し「永遠に解けることのない救いの力」を示している。——初期のクリスチャンにはそのように述べる人たちがいました。また、包帯は、わたしたちを義に結んでくれるキリストの教えであると解釈する人もいました。さらに、末日聖徒の教えでは、救われた人は聖約によって主に結び付けられる(主に対して義務を負う)ことも教えています(教義と聖約 35: 24, 43: 9参照)。

オリーブ油。オリーブ油の外用薬には大きな鎮痛効果があったはずですが。初期のクリスチャン記述家のほとんどは、ここでは、キリストの慰めの言葉を象徴していると解釈しましたが、クリュソストモスは「神聖な油注ぎ」であると理解していました。これは、幾つかの神権の儀式、癒しの儀式(ヤコブの手紙5: 14参照)、聖霊の賜物(しばしばオリーブ油によって象徴される)、あるいは王または女王への油注ぎを指す可能性があります。

ぶどう酒。サマリヤ人は傷口にぶどう酒をも注いで清めました。後のクリスチャンの記述家はこのぶどう酒を、神の言葉——すなわち心を刺すもの——であると考えました。が、初期のクリスチャンの解釈では、聖餐に象徴されるように、ぶどう酒とキリストの血を関連づけていました(マタイ 26: 27-29; 3ニーファイ 18: 8-11参照)。贖いの血であるこのぶどう酒は、罪を洗い清め、心を浄化して、神の御霊がとどまるように備えてくれます。ほんとうに良いサマリヤ人は、肉体の手当てをするだけでなく、福音の救いの原則と儀式を施してくれるのです。贖いのぶどう酒は始めは心を刺すかもしれませんが、程なく癒しと平安をもたらしてくれます。

自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

旅人を自分の家畜に乗せた。キリストは、御自身でわたしたちの病を受け(イザヤ 53: 4; アルマ 7: 11参照)、預言を成就されました。サマリヤ人の家畜はキリストの体を象徴すると解釈されていました。その家畜に乗せられる



とは、神が肉体をまとい、わたしたちの罪を負い、わたしたちのために苦しまれたことを信じるという意味です。

宿屋。初期のクリスチャンは、宿屋は教会の象徴であるという解釈を自然に受け入れていました。「宿屋」というのは、「すべての人に開かれた公共の建物」でした。公共の避難所であることから、幾つかの点でキリストの教会と比較することができます。路傍の宿屋は天の目的地ではなく、旅人が永遠のふるさとに帰るために必要な助けとなるのです。

介抱した。その夜、サマリヤ人は、傷ついた旅人に付き添い、自ら介抱してやりました。怪我をした旅人をすぐに宿屋の主人の手にまかせたのではなく、苦しい時間の間中、彼に寄り添って過ごしたのです。オリゲンがこう語っています。「[イエスは傷ついた人の世話を]明るいうちだけでなく、夜もしてください。主はその人のために、全身全霊で介抱してください。」

何らかの理由で、強盗たちの興味の対象は彼の着物のようでした。それは、聖地から運ばれてきたものであり、彼らにとって羨望的であり、奪い去りたいものでした。

福 音に照らして
このたとえを
読んでみると、
自分自身を
物語の登場人物
ほぼ全員に
なぞらえることが
できます。



翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、「この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います」と言った。

翌日(訳注——欽定訳から和訳すると「翌朝」)。初期の解説者たちは、これは、イエスが復活の朝によみがえるということであると解釈しました。キリストはわずかの間、弟子たちに直接教えられました。そして、御自分が天に昇ったあと、主は旅人の世話を教会に託されたのです。

主人。同様に、初期の解説者たちは宿屋の主人を、パウロやほかの使徒たち、そしてその後継者であると解釈しました。しかし、宿屋が教会全体を差すとすれば、宿屋の主人とその雇い人は、教会のすべての指導者および奉仕者であると考えられます。彼らは、癒しを求めるあらゆる人を養い、世話するよう主から託されているのです。

帰りがけに(訳注——欽定訳から和訳すると「再びわたしが来るときに」)。キリストを象徴する人物は再び来ることをはっきり約束しますが、これは明らかにキリストの再臨をほのめかしています。欽定訳の新約聖書の中で「帰ってくる」(to come again)と訳されているこのギリシャ語が使われているのは、こことルカによる福音書第19章15節だけです。そこに記されているのは、僕たちに金を渡し、その金でどんなもうけをしたかを知ろうとして帰ってくる王のたとえです。こうして比べてみると、この言葉がキリストの再臨を表していることがはっきり分かります。

支払う、あるいは報いる。最後に、宿屋の主人は、かかった費用をすべて支払われるという約束を受けます。「あなたが費やした分は、すべてわたしが償います」と。この物語をただの日常的な出来事と考える近代の解説者たちにとって、この約束ほど理解に窮するものはないかもしれません。どれだけ費用を使ってもよいと白紙委任をしているのですから。見も知らぬ宿屋の主人に、正気でそんな約束をする人がいるでしょうか。しかし、この話を比喩的に解釈すると、この約束の意味が分かってきます。つまり、この約束が与えられる前から、サマリア人(キリスト)は宿屋の主人と面識があり、二人の間には信頼関係が存在していたことが分かるからです。

永遠の原則

わたしたちには神の無限の属性と神性の完全を理解するのが難しいため、主はひながた(モーセ5:7参照)を用いて、語りかけられます。象徴によって、わたしたちの理解の限界が引き上げられ、キリストの比類ない福音の神秘に埋め込まれた真理に導かれます。そして、良いサマリア人のたとえに秘められた象徴的な意味を理解することにより、良い隣人になるようにという現世的な教えのうえに、永遠の展望が加えられるのです。

イエスはこのたとえを用いて、天の御父の救いの計画の本質を教えられました。救いの計画の一つの予型と影である良いサマリヤ人のたとえは、わたしたちが隣人として行う親切な行為を、永遠の見地から見させてくれます。すなわち、わたしたちがどこから来て、どのようにして現在の苦境に陥ったか、また、わたしたちが主の再臨の時に受ける報いにふさわしく奉仕し、また生活するならば、約束された救い主が救いの儀式と、癒しをもたらす愛と、主の教会の養いによって、わたしたちがどのように現在の状況から救われるかということを見せてくれるのです。

このような観点からこのたとえを讀んでみると、この物語に出てくるすべての登場人物を自分になぞらえることができるはずです。ある意味で、わたしたちは自分を良いサマリヤ人と考えることができます。つまり、実際に手を差し伸べる救助者としてまた、シオン山の救い手として、失われた人々を救うという、非常に重要な大義に協力するのです。イエスは、質問を投げかけたそのパリサイ人に次のように言われました。「あなたも行って同じようにしなさい。」(ルカ10:37) サマリヤ人と同じようにすることによって、わたしたちは、人類に救いと永遠の命をもたらす主の助け手となることができます。

主の弟子たちは自分を、傷ついた旅人が霊的に回復のた

めに長期的な世話をするよう、イエス・キリストから委任された宿屋の主人と考えることも必要でしょう。

あるいは、自分を旅人になぞらえることもできます。人は皆、たとえの始めに登場するこの疲れた孤独の旅人に同情し、自分の姿を重ね合わせます。わたしたちは皆、救われなければなりません。この解釈に添って物語を讀み終わった旅人たちはすべて、「強盗に襲われた人の隣り人になった」(ルカ10:36) その人が慈悲深いキリスト御自身だったことを知り、安心するはずで、主こそ最も模範的な隣り人なのです。

ここまで理解できれば、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」という律法学者の二つ目の質問の答も、「何をしたら永遠の生命が受けられましようか」という最初の質問の答も分かります。永遠の命は、「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして」(ルカ10:27) 神を愛し、自分を愛するように御子(隣り人)を愛することによって受けられるのです。そうするには、救い主が行なった模範に従って行き、同じように人々に愛を示す必要があります。なぜなら、人のために務めるのは、とりもなおさず、わたしたちの神のために務めることにはかならないからです(モーサヤ2:17参照)。

注

1. *History of the Church*, 第2巻, 226
2. マルコム・ミラー, *Chartres Cathedral* (1985年), 68
3. 本記事中の引用に関する完全な論考および出典については, *Brigham Young University Studies*, 1999年春号 51-115に掲載のジョン・W・ウェルチ「良いサマリヤ人——救いの計画の予型と影」(The Good Samaritan: A Type and Shadow of the Plan of Salvation)に詳しく掲載されている。良いサマリヤ人のたとえを同じように解釈しているそのほかの末日聖徒には、ヒュー・ニブリー、スティーブン・ロビンソン、ライル・ブラウン、ジル・メージャーなどが含まれる。
4. オリゲン, *Homily 34.3*, ジョセフ・T・ラインハード訳, *Origen: Homilies on Luke, Fragments on Luke* (1996年), 138
5. R・レアード・ハリス, グリーンソン・L・アーチャー・ジュニア, ブルース・K・ウォルトク編, *Theological Wordbook of the Old Testament* (1980年), "Aadam," 第1巻10
6. *Anchor Bible Dictionary* (1992年), 「旅行と通信」の項, 第6巻644-646参照。古代世界では、旅行中に強盗に襲われる確率が高かったため、たとえの登場人物のように一人旅をする人はほとんどいなかった。このことも、この話がたとえとして解釈されていたことの手がかりとなっている。

センス大聖堂のこの窓には、さまざまな要素がテーマ別にまとめられています。
良いサマリヤ人のたとえは窓の中央部の3つの枠に描かれています(コンピューター処理した右側の写真)。
一方、アダムとエバの背きと救い主の十字架上の死など、救いの計画に関する絵は、たとえの絵を囲むように配置され(コンピューター処理した左側の写真)、全体で一つの窓を完成させています。



人生の指針となる 10の根本原理



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

わたしがこれまで福音に従って生活してきた経験から少しずつ蓄積してきた、10項目の根本原理を紹介します。皆さんの人生の指針となる原則を定めるのに役立つよう願っています。

最 近の出来事を見ていると、確かに今が「終わりの時」であることを痛感させられます。ますます混乱を極める世界の国々の状況を見ると、救い主イエス・キリストの次の言葉を思い起こします。「また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。……民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。」(マタイ 24：6-7)

現代は課題の多い、しかし同時にわたしたちの心を奮い立たせる時代でもあります。福音は人手によらずに山から切り出された石のように転がり進んで、全地に満ちています(ダニエル 2：44-45参照)。そして今、御業をさらに前進させることは皆さんに与えられた特権です。

社会で大きな成功を収めたり影響力を発揮するには知識だけでは不十分であり、その知識を使って賢明な選択をして正しい決断をすることが不可欠です。皆さんが社会に出て仕事をするとき、そのことが分かるでしょう。

言うまでもないことですが、状況が変わったり、自分の理解力が増したりするのを待たなければならないような決定もあります。しかし最も大切な決断の多くは、今することができますし、今しなければならないのです。例えば、将来の意思決定を左右する根本原理とも言える原則を、今決めておくのです。

以下にわたしがこれまで福音に従って生活してきた経験から少しずつ蓄積してきた、10項目の根本原理を紹介します。皆さんの人生の指針となる原則を定めるのに役立つよう願っています。

1 根本原理

注目すべきなのは障害そのものではなく、それをどのように乗り越えるかである。

ここでちょっとの間、皆さんは自分が蒸気機関士だと想像してみてください。線路の上を走る機関車に乗って、窓から外を見えています。するとかなたの線路上に大きながれきの山があって、行く手を阻んでいることに気づきます。さてどうしたらよいのでしょうか。次の駅に連絡して助けを求めますか。列車を止めて、自分で問題を解決しますか。それとももっとたくさんの石炭を焚いて、がれきの山を蹴散らして前進しますか。

人生においてわたしたちすべてが何らかの障害に遭遇することは自明の理です。

この世での障害は永遠の進歩を可能にします。ですからそれらの障害にどのように立ち向かうかを決めなければならないのです。





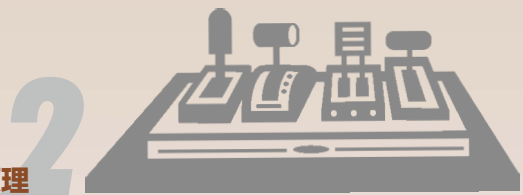
わたしたちは機関士のように助けを求めることができます。つまり祈り、断食し、熱心に学ぶことによって、天の御父の助けを得ることができるのです。天の御父は、聖なる御霊により、わたしたちを慰め、強め、啓発してください。また御父は、両親や神権指導者を通してしばしば靈感あふれる勧告を与えてくださいます。障害物を取り除いて、道をなめらかにして下さることもあります。ときには^{てんてつしゅ}転轍手がするように、別の線路上に行くように助けてくださいます。またときどきは、列車を止めてその問題を取り除くことしか、がれきを線路から除去する方法はないこともあります。

主の戒めを破ったときなど、自分が原因でその障害が生じた場合は、まさにそのときです。罪というがれきを取り除いて前向きに生きる唯一の方法は、悔い改めしかありません。「人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」(教義と聖約 58 : 43)

最後に、天の御父は信仰と希望という霊の石炭をつぎ込んで、前へ進むように命じられることがあります。あるいはもっと聖

文的な言葉で言えば、「力強く進む」ように命じられるのです。

「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ 31 : 20)



根本原理


心と、勢力と、思いと、力を尽くして目標を追求する。優柔不断なやり方では失敗は避けられない。

わたしたちは優柔不断な態度を取り、確信をもって前進しないことが往々にしてあります。暗闇の中で恐れているかのように、手探りで動いています。信仰の光をともして、活力と



信 仰の
光をともし、
活力と
確信をもって
前進する方が
ずっとよいのです。

確信をもって前進する方がずっとよいのです。
もし進行方向が間違っていたら、すぐにそれに気づいて必要な修正をするようにします。しかし優柔不断でのりくらりとした態度で進むなら、それが正しいのか間違っているのかを知ることが難しく、時を遅えず修正することができなくなってしまうかもしれないのです。
主は言われました、「むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。」(黙示3：15)
今祈りをもって決断することを決め、そして信仰と活力、決意をもって前進すべきです。

3 **根本原理** 

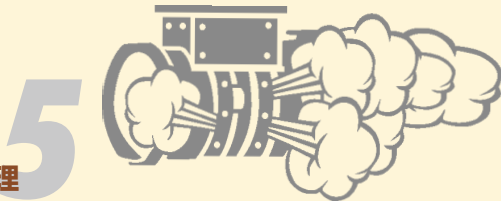
ほんの小さな火花が大きな火災を引き起こす。
行動を起こすときに、人との摩擦が生じることがあります。誤解、意見の相違、性格や流儀の違いなどによって衝突が起こります。油断していると、小さな事柄がすぐに大きな事柄へと発展してしまうことを忘れないでください。
ほかの人の良い点を考えて、今のうちにその摩擦の火花を消してしまおうと心に決めてください。主はこのように教られました。「自分に敵意を抱いている者と、一緒にいる間に早く仲直りしなさい。」(3ネーフай12：25)
人を非難してはなりません。ほかの人につ

いてあなたが言うことは、その人に伝わるかもしれません。(そして大抵は伝わってしまいます。) 人々の良いところに目を向けてください。そして、あなたの揺るぎない友情、寛容さ、忠誠心、信頼、愛によってその人の良いところを育ててあげてください。

4 **根本原理** 

最大の長所が最大の短所にもなり得る。
人生で何かに熟練していてよく備えができていても、そのような能力だけに頼ってしまうと、それは大きな弱点にもなります。注意していないと、自分が会得した能力は、適切に用いないかぎり、利己的な目的を果たす道具に成り下がり、生活に大きな制約を生じかねません。
例えば、他人とうまくやれない人は、成功できません。自分が得た知識は、教会や家族、職場や社会、そして友情を強固にするために、今、活用していかなければならないのです。
わたしたちが持っている賜物、才能、知性は神が与えてくださったものだということを忘れてしまうと、わたしたちの持つ最大の長所は短所が変わってしまいます。わたしたちが「生まれながらの人」(モーサヤ3：19)の状態にとどまり、人生の賜物^{たまもの}のすべては神から与えられた

ものだということを忘れてしまうときがそうです。長所が短所にならないようにするためには、「すべてのことの中に神の手を認め……神の戒めに従」(教義と聖約59：21)わなければなりません。

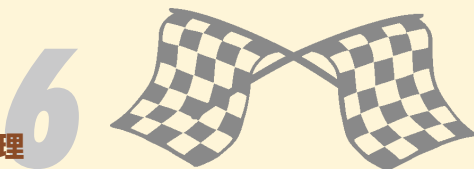


根本原理

失敗から学ぼうとする信仰があるなら、失敗は最高の教師である。

救い主は、「あなたがたはこの世ではなやみがある」と言われました。しかし主はすでに世に勝っておられるために、わたしたちは「勇気を出」(ヨハネ16：33)すことができる、つまり失敗を克服することができるのです。ですから、過ちから学ぶ機会をとらえて、どんな点でもっと向上することができるかを熟慮し、改善するための計画を立てるべきです。

そうするならば、挫折や失望は「つかの間」であり、「[わたしたちの]益となる」(教義と聖約122：4, 7)ことが分かるでしょう。信仰があれば、「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。……万事が[わたしたちの]益となるようにともに働くであろう」(教義と聖約90：24)という主の勧告を真剣に受け止めることができます。



根本原理

どのようにレースを始めるか、またはレース中、今自分がどこにいるかはそれほどではなく、重要なのはどのようにゴールに到着するかである。

タンザニア出身のマラソン走者ジョン・スティーブン・アクワリは、1968年の夏季オリンピックに出場しました。レース中に疲労、足のけいれん、脱水症状、方向感覚喪失などに悩まされながらも、レースを続けるようにという内なる声を聞き、あきらめませんでした。疲れ果ててよろめきながら、ジョン・スティーブンは最後にスタジアムに入ってきました。勝つ見込みが全くないレースをなぜ完走したのかという質問に対して、アクワリはこう答えました。「わたしの祖国はただレースを始めるために、わたしを7,000マイル(11,200キロ)もの遠い場所へ派遣したわけではありません。レースを完走するために

ここに送ってくれたのです。」

わたしたちは単に生まれるためにこの世に送られてきたのではありません。最後まで堪え忍ぶという使命と目的をもって生まれてきたのです。

ふどう園に送られた労働者のたとえ話を覚えているでしょう。すべての労働者が主人のために働き、同じ賃金を受け取りました。最初に来たか、後から来たかは問題ではありませんでした。とにかく来たことに意義があったのです。(マタイ20：1-16参照)

若いときに道を踏み誤ったとしても、「もうすべてが終わりだ」などと思ってはなりません。主の裁きは、過去の罪と過ちを平均して最終的な成績が決まるというような霊的な成績の平均値ではないのです。主はこう約束されています、「自分の罪を悔い改めたものは赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約58：42)

ですから、自分の望むレベルにまだ達していないならば、そこへ到達できるように、今日決心してください。

わたしたちの生涯の評価は、バプテスマ、聖霊を受ける、洗い、油注ぎ、エンダウメント、結び固めなどの救いの儀式で交わした聖約にどれだけ忠実に生活したかによって決定されます。

皆さんもほかの人たちと一緒にゴールすることができるのです。

「退かずに前に進んでください。……勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。」(教義と聖約128：22)



根本原理

「物持ちになりたければ、得たものを蓄えてください。愚かな人でも金を稼ぐことはできますが、自分自身の益のためにそれを蓄え、使用するのは、賢明な人です。」¹

人生において真の幸福をはぐくむことは、わたしたちにとって有益なことです。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています、「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり計画である。」² 残念ながら、わたしたちはこの世の物質的なものに対して飽くことを知らない、どん欲の時代に生きています。この風潮から逃れるのは至難の業です。

この世的(temporal)とは「一時的(temporary)」という意味であることを忘れないでください。一時的なものは永遠の

幸福をもたらすことはできません。

将来に向かって、長い目で物事を見てください。忍耐強くなければなりません。

什分の一じゅうぶんの献金を納めてください。そして貯金しましょう。両親が何年もの間じっと根気強く貯蓄して得たものを、今すぐ手に入れようとしてはなりません。

現在の収入の範囲内で生活し、それを楽しむことのできる人は幸せな人です。

8

根本原理

選択の自由を行使して決めたことに責任を負わないで、主の御心を知ることはできない。

自分では全く、あるいはほんの少ししか努力しないのに、聖霊がわたしたちの疑問に答えてくれると考えることがよくあります。わたしたちはオリバー・カウドリのように、「求めさえすれば、何も考えなくても」(教義と聖約9:7)よいと思ってしまうのです。そして残念ながら、祈ることさえしないときもあります。

しかしこれは主の方法ではありません。主は、「[あなたがたは]心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうか[主に]尋ねる」ように命じておられます(教義と聖約9:8; 強調付加)。

例えば、永遠ほんりよの伴侶を選ぶとき、候補者のリストを提示して、主に決めていただくことはしません。そうではなく、デートをすることで選択の自由を行使し、その人がどのような考え方や言動をする人かを知ろうとします。それから自分で決定して、主に尋ねるのです。

このように、わたしたちには、自分の決めたことに対して責任があり、直面する数々のチャレンジに祈りをもって取り組む義務があるのです。

9

根本原理

物事が変われば変わるほど、変わらないものもたくさん出てくる。

わたしは1975年に、ブリガム・ヤング大学で学生たちに話しました。そのとき左手を高く上げてこう言いました。「わた

したちはここにいます。」それから、右手を左手から遠ざけてこう言いました。「世の中はここからどんどん遠ざかっています。」当時わたしは世の道が福音の道から数百マイルも離れていると想像していたのです。そして、左手が示すものについてこう言いました、「しかし教会はまだここにいます。」

それから32年近く経ちました。今日、世はそれよりももっと遠ざかってしまいました。わたし個人の見解では、何千マイルも遠くへ離れてしまっています。ひょっとしたらもっと遠くかもしれませんが、教会は全く変わっていません。

その教会の会員として、皆さんは世にあって仲間とは違っていなければなりません。そしてこの距離はさらに大きくなるでしょう。しかしうろたえてはなりません。見る目のある人は皆さんを丘の上の光と見て、この終わりの時の暗闇の中から出て来て、皆さんとともにいて、皆さんの放つ光を浴びるようになるのです。

10

根本原理

神の宮は最高の大学である。

回復されたイエス・キリストの福音の真理を知ることは、皆さんが持っている知識の中で最も価値あるものです。

神殿に参入してください。エンダウメントは永遠の教育課程です。わたしたちはエンダウメントの儀式の中で、自分がどこから来たのか、なぜ今地上にいるのかを学びます。また戒めや聖約に従うならば、日の栄えの王国で永遠の命を得るという約束を与えられます。

わたしは、以上10の根本原理を心に留めて証を述べ、皆さんに約束したいと思います。神の忠実な息子や娘となるように努力するとき、王国の事柄に関して妥協する必要は全くありません。皆さんが神から与えられた使命に関するかぎり、福音に従って生活していて不利な立場に置かれることはありません。ただし、自分の一時的な利益のために神の永遠の原則を曲げるようなことがあれば、当然自分のものとなるはずであった永遠の祝福を失うことになります。

ニューヨークで生まれたわたしは、生徒数が数千人もいた高校の中でたった2、3人しかいなかった教会員の一人でした。50年後の同窓会が最近あったのですが、かつての同級生たちはわたしが自分の価値観と信念に従って生活していたことを覚えていてくれました。そのとき感じたのは、もしわ



たしが知恵の言葉をほんの少しでも破ったり、道徳的な罪を犯していたならば、「わたしはこういうことを信じています」と言って友人から信頼されることはなかっただろうということでした。

福音を分かち合いたくても、自分が実行していないことを人に教えることはできません。大学生として、また軍隊で副官や戦闘機のパイロットとして、大学院生として、また就職後は営業・市場開発課の担当者や事業部長、グループ管轄の副社長として、わたしの価値観または信念を曲げて妥協するよう求められたことは一度もありませんでした。

それはたやすいことだったでしょうか。

分かりません。しかし、わたし自身、たやすいことを求めてはいませんでした。

難しかったでしょうか。

難しいことを求めていたわけでもありません。それが現実だっただけの話です。

人々から自分の信念に関して、説明や対応を迫られたことはあったでしょうか。

もちろんありました。

信念を曲げなかったために、人々は福音に従った生活をするというわたしの決意を尊重し敬意を払ってくれたでしょうか。

あらゆる場合にそうでした。

自分が何者であるかを忘れず、その信念に従って行動しましょう。すべての召し、課せられた仕事、割り当てをりっぱに果たしましょう。救い主の御名に忠実に、そして主の永遠の祝

福を受けるにふさわしく生活しましょう。

そうするなら、聖霊の光が常にともになり、導きと助けを与え、高めてくれます。何を言い、どのように行動するかに困ることはありません。聖霊が教えてくれるからです。

皆さんがどのように生活するか、何を代表するか、仲間をどのように待遇するか、自分の伴侶や家族をどのように尊重し、敬意をもって接するかによって、救い主イエス・キリストの影響を広めることができます。キリストのようになり、主の御霊の勧めに従い、主の御心を行うことほど、キリストを信じる者としての偉大な奉仕はないからです。

皆さんも歳を重ねるごとに、福音に従って生活することによって自分の経験からさらに幾つかの根本原理を見いだすことでしょう。それらの原理をよく身に付け、それに従って生活してください。

主の祝福と守りがあり、皆さんが素晴らしい人生を過ごせるよう、自分の希望するような人になれるように、この地上で夢を叶えて、永遠の世に名誉の帰還を果たすことができるように祈っています。■

この記事は、2003年8月14日、ブリガム・ヤング大学の卒業式における話を基に書かれました。

注

1. 『歴代大管長の教え-ブリガム・ヤング』252 - 253
2. *History of the Church*, 第5巻, 134

貯金しましょう。
両親が
何年もの間
じっと根気強く
貯蓄して得たものを、
今すぐ手に入れよう
としてはなりません。

決して一人ではない

アン・グレンズバック

あなたが、子供のときから集っている教会とは違う教会に入ろうと決意したとします。そして家族にそれを伝えるときのことを想像してみてください。家族はどんな反応を示すでしょうか。あなたを支持してくれるでしょうか、それとも失望するでしょうか。もし友達を失うとしたら、ほかの教会に入ることはそれだけの価値があるでしょうか。

これは数年前、わたしがこの教会の教えを学んでいたときに直面した問題です。ある友達は、自分の気持ちに正直に従うように、そして、家族や友達の拒絶に対する恐れから主が助けてくださると信じるように、とアドバイスしてくれました。そのような純粋な信仰を持ち、わたしは2002年4月にバプテスマを受け、新しい一歩を踏み出しました。

家族の中でたった一人の教会員であることは容易なことではありませんでした。聖約を守ることや毎日聖文を読むことなど、証あかしをはぐくみ続けるために小さな努力を日々重ねていけるよう助けてくれる家族はいません。信仰を守り通せるかどうかはすべて自分の肩にかかっているのです。そんな中で、ほかの人に福音を分かち合い、神殿の業かっとうに熱心に取り組み、いつか家族が教会に入るという望みを失わないようにして、教会活動に没頭することで、家族でたった一人の教会員であるわたしは、支えと慰めを見いだしました。

反対されているときの心の支え

教会に加わるまで、家族をひどくがっかりさせるようなことはしたことはありませんでした。わたしが教会に加わったことで、家族は裏切られたように感じていました。それが分かっていたので、家族を傷つけてしまったことに、いたたまれない気持ちがしていました。でも、教会に入ったのは、主がわたしに望まれていることであり、家族のためでもあると心に強く感じていました。だから、教会に集い続けました。

家族で
たった一人の
教会員である
わたしは、
福音の中に支えと慰めを
見いだしました。

その当時わたしは家族の近くに住んでいませんでした。家に帰るときにはいつも責められ、屈辱を受けました。伝道に出ると決めたとき、状況はもっと悪くなりました。祖母は、目に涙をためてこう言いました。「アニー、もし伝道に行くなら、わたしの心は張り裂けてしまうわ。」伝道に出よう御霊みたまの促しを受けたことと、伝道に行かなければ天の御父に従わないことになることを、祖母に伝えました。

伝道の準備をしていたとき、ワードの家族から慰めと力を見いだしました。彼らは、わたしが教会員として新しい生活に適應できるよう、よく助けてくれました。また、わたしが家族から受ける反対にうまく対処していけるよう支えとなってもくれました。家族との問題があっても、教会の責任や活動、宣教師との交わりを通して、容易に忍耐することができました。また、ニューヨークのパルマイラの近くに住んでいたのも、度々聖なる森に行き、そこに座って自分の状況について深く考え、平安を求めました。

家族に奉仕する

ワードの教会員からの支えはあったものの、家族に理解されないという葛藤かっとうは続きました。家族は、教会に関して教会外から得た情報だけを信じ、わたしが言うことを聞き入れようとはしませんでした。福音について話し合っただけで誤解を解こうとしたのですが、理解してもらおうのは到底無理だと思えました。愛する家族と理解し合えないまま溝は広がり、どうやってそれを修復したらよいか分からずにいました。バージニアへの伝道に出るころには、家族が教会に興味を持ってくれるという希望をほとんどなくしていました。

伝道地からの家族あての手紙を通して福音を伝える努力を続けました。父に宣教師と会うように勧めたことがありました。父は率直に「興味がない」と書いてきました。父のその返事を読んだのは伝道中でいちばんつらい経験の一つでした。



ワードの家族は、
わたしが
家族から受ける
反対にうまく
対処していけるよう
支えとなってくれました。
また、わたしは
聖なる森で
自分の状況について
深く考えることにより、
さらなる平安を
見いだしました。

が、一生懸命伝道して、福音を聞こうとしてくれる人たちに福音を分かち合おうとする大きな動機付けとなりました。すべての人がだれかの家族であり、だれか一人を助けることはだれかの祈りの答えになっているのだ、と気づくようになりました。専任宣教師ではなくなった今でも福音を伝える努力を続けています。

神殿を通して得た祝福

2005年4月の総大会で十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老が説教のため壇上に立ったとき、わたしはアイリング長老の言葉によく注意を払う必要があるという強い印象を

受けました。長老は次のような言葉で説教を始めました。「わたしのメッセージは教会の改宗者に向けたものです。……皆さんは、少数派ではありません。皆さんに伝えたいのは、主がどれほど皆さんを愛し、信頼しておられるか、そして何より、主がどれほど皆さんを頼っておられるかということです。」¹

アイリング長老は、改宗者が自分の家族と福音を分かち合うことをやめることのないように話し、家族への伝道活動のもう一つの重要な部分は、神殿の業である、と説明しました。

アイリング長老の言葉に鼓舞され、神殿参入と家族歴史についての目標を作りました。やが



専任宣教師 ではなくなった 今でも

福音を伝える努力を
続けています。
家族歴史の探求や
神殿での奉仕も、
平安と幸福を
もたらしてくれます。

て、先祖の名前を神殿に持って行くことに充実感を覚えるようになり、そうするうちに予期していなかった驚くべき祝福を受けました。幕の反対側にいる人々とのつながりが非常に強くなりました。先祖の名前を見つけようとするときには奇跡を見、その儀式を執行するときには先祖がその場にいるように感じました。

次の祝福は、伝道から帰還して以来、初めて祖母に会ったときに与えられました。神殿に持って行きなさい、と言って、祖母が先祖の名前を書いたリストをくれたのです。祖母はまた、祖母の父がモルモン書を読んでいたことを思い出して、自分も読んでみたくなった、と言いました。今ではモルモン書から学んだことを毎週電話で話してくれます。

伝道に出る前、わたしはある印象を受けました。わたしが教会に入る前の1996年に亡くなった祖父が、祖母の気持ちを和らげる助けをしてくれているという印象です。宣教師訓練センターにいる間、わたしの地区の長老たちが祖父の神殿の儀式をしてくれました。日の栄えの部屋に座っているとわたしの家族全員がそこに一緒にいる光景が頭に浮かんできて、胸がいっぱいになりました。家族が福音を受け入れられるよう、祖父も最善を尽くしてくれているのだ、とわたしは信じています。

希望を持ち続ける

母が伝道地から帰還したわたしを迎えに来たのは10月の総大会の週末でした。母は3つ

の部会にわたしと一緒に参加したのですが、クリスマス用にと総大会のDVDを注文するほど大会を満喫してくれました。わたしにとってこのことは奇跡であり、希望を失わないように知らせる出来事でした。

今のところ、家族の中でだれも教会に入ることに興味を示してはいませんが、この世で、もしくは次の世でそうなると感じています。家族との関係はとてよくなりました。それは、わたし自身の努力ではなく、聖霊の働きかけによるものだと思っています。天の御父はわたしたちが御心^{みこころ}を行おうと努力するとき、奇跡を起こしたり、義にかなった望みを抱けるようにしてくださいます。そのようにして御父はわたしたちを祝福してくださるのです。前進するための天の御父の力と支えをこれまでいつも感じてきました。天の御父の真実の教会にあって、独りぼっちになることは決してありません。そう確信しています。■

注

1. 「結ばれた心」『リアホナ』2005年5月号, 77

家族で自分だけが会員の皆さんへ

- ワードや支部の家族から慰めと力を見てください。
- 祈りを通して平安と導きを求めましょう。
- ほかにの人に福音を分かち合いましょう。すべての人には家族がいて、あなたのすることは、だれかの祈りの答えとなるかもしれないということを感じておきましょう。
- 家族歴史の探求や神殿の業に取り組みましょう。
- いつか家族が福音を受け入れてくれる、という希望を失わないようにしましょう。

家族で仲良く過ごす

チリ, サンティアゴのパルド家では家族の活動が盛り上がっています。テーブルの上にはソーダのビンのでっぺんにマッチ棒がうず高く積み重ねられています。16歳のアンドレアの順番になりました。アンドレアの手が今にも崩れそうなマッチ棒の山のでっぺんに近づき、ゆっくり、慎重に、次のマッチ棒を置こうとすると、家族みんなの目が彼女の手に注がれます。だれもが固唾を飲んで見守っています。

「気を付けて!」13歳のジャビエールが叫びます。突然の叫び声に、みんなびっくり。アンドレアはもう少しでぐらぐらしているマッチ棒の山を崩しそうになります。

一瞬、アンドレアはジャビエールをにらみます。でもほっと一息つくと、アンドレアもみんなと一緒に笑い出します。

9人が一つ屋根の下に住んでいると、ときには意見の食い違いは避けられないことです。どんな家族でも、いつも仲良くやっていくことは簡単ではありません。

フランシスコとビビアンと子供たち——アンドレア, フランシスコ, ビビアン, ジャビエール, セバスチャン, エリザベス, オーガスティン——は、もっと仲良くなるために、最近、時間を取って自分のしていることを互いに分かち合うようになりました。

仲良くなるには時間が必要

- お互いのために時間を作る。きょうだいの試合、行事、発表がうまく行くように見に行き応援する。
- 一緒に食事をする機会をできるだけ多くする。
- 家庭の夕べを優先する。
- 週に一日を家族で何かする日にする。
- 一緒に料理をし、掃除をし、祈り、遊び、そして笑う。
- 自分から行動する。たまたま一緒に過ごす時間ができたら、何か楽しいことを一緒にする。

仲良くなるには対話が必要

- 話す時間を取る。家族会議を開く。親子一対一で対話する。
- 一緒に聖文を研究する。聖文はすばらしい会話のきっかけになる。
- 一緒にテレビや映画を見たりするのは楽しいが、会話に比べると劣る。

- 摩擦が起きたら、利害関係のない人が良い仲介役になるとよい。

仲良くなるには奉仕が必要

- 一人の問題は、みんなで見つめよう。
- 互いに奉仕する方法を探す。特になかなか仲良くできない相手のために奉仕する方法を探す。
- 家族と一緒に奉仕する方法を探す。
- 「なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」(モーサヤ 5:13) ■



写真/マンニャーライアー。家族の写真/アダム・C・オルソン

直前の変更

ジャッキー・オーマン

2001年11月、妹は悪性の癌と診断されました。45歳の彼女には息子が4人おり、そのうち一人はポルトガルで伝道していました。妹の家族はもちろん、妹が所属するアリゾナのワードとステーキも、すぐに妹のために断食と祈りをしてくれました。しかし、翌年の5月の終わりに癌が妹を打ち負かし、妹は意識不明になりました。神権の祝福を受け、熱烈に祈った後、わたしたちは妹の延命装置を取り外すことを決断しました。医師によれば、装置を外せばすぐに死が訪れるはずでした。しかし、8日たっても妹の容態は変わらず、一日一日が長く、つらく感じられました。

それまでの数か月間、わたしたち家族は悩み苦しみました。妹を愛していました。救いの計画を理解しながらも、主がすべてをよくくださるという信仰を持つことが時々難しくなりました。どういうわけか、信仰が十分あれば妹は治るという思いがあったのです。ですから一向によくならない妹を見て、わたしたちは信仰の力を疑うようになりました。天の御父が祈りを聞き、答えてくださることは知っていました。けれども、わたしたちは御父からの祈りの答に打ちのめされ、平安を感じる事ができませんでした。

6月2日は、ユタ州に住むわたしたちのステーキのステーキ大会が予定されていて、大会に地域七十人が出席することになっていました。ステーキの会員の数が多いため、ステーキ大会は2回に分けて

行われることになっていました。ステーキの独身ワードに集う3人の息子は午前の部会に、残りの家族は午後の部会に割り振られました。しかし、夫とわたしは、午前の部会に家族みんなで出席するのがよいと思いました。その後間もなく、夫とわたしは午後の部会のお祈りを頼まれ、計画を変更することになりました。

こうして、土曜の夜の部会に家族全員で出席すると、一つの変更が気づきました。大会の直前に、七十人のL・ホイットニー・クレートン長老が、当初予定されていた

地域七十人の代わりに大会に出席するように割り当てを受けたのです。

日曜日の午後、クレートン長老は「準備したのとまったく違う話をするようにとの印象を受けました」と言って話し始めました。今日ここにいるある家族のために話す必要があると御霊がささやいたのです。その瞬間、クレートン長老はわたしたちのために話してくれるのだと感じました。長老はあるステーキ会長の話をしました。その人の妻は癌と診断されましたが、家族、友人、ステーキの会員が熱心に祈りと断食をした結果、完全に快復したそうです。

クレートン長老はそれから、別のス



クレートン長老は「準備したのとまったく違う話をするようにとの印象を受けました」と言って話し始めました。今日ここにいるある家族のために話す必要があると御霊がささやいたのです。



テーク会長の話をしました。その人の妻は彼がステーキ会長として働いていたときに癌で亡くなりました。まだ世話の必要な小さな子供たちを夫のもとに残して世を去ったのです。やはり、多くの人が断食して彼女の回復を祈りました。この話をするとき、クレートン長老は、感極まっていました。亡くなったその女性は、クレートン長老の妻のたった一人の姉妹だったのです。

クレートン長老は続けました。「このような時に、たとえどんなに信仰を働かせても、願いと反対の答えが与えられることもあります。」そして長老は、そのとき以来わたしたち家族にとって特別な聖句となった聖句を読みました。ダニエル書第3章17節と18節です。

「もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。」

たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。」(強調付加)

その日の午後、クレートン長老の話に、わたしたちにとって耳新しい教義はありませんでした。しかし、その日起きた奇跡にわたしたちは驚嘆しました。主は、わたしたちが確実に午後の部会に出席するように、午後の部会の祈りをわたしたちに割り当てるようにと、だれかに思いつかせられました。主はさらに、御自分の僕しもべの一人、わたしたちと似た経験をした僕を遣わして、わたしたちに語らせられました。そうして、もう一つ、主が遣わされたこの人は、賢明で従順で、御霊のささやきを聞き、御霊に従うことができるように生活してきた人でした。この経験により、わたしたちの霊は、言葉に出来

ないほどの感動を受けました。

翌日、電話で妹の死を知らされました。悲しくはありましたが、「主の御心みこころがなされた」という揺るぎない確信をもって、妹の家族のために祈ると、御霊が家にとどまり、優しく慰めてくれるのを感じました。そして、主がわたしたちの祈りに、貴重な答えをくださったことに感謝しました。■

覚えていたクリケット

デニス・パークス

わたしは、1942年にイギリスで、愛情深い父、母、姉のいる家族に生まれました。わたしが7歳のとき、我が家はもう一人の家族に恵まれました。男の赤ちゃんです。母は救い主を愛していましたが、特にどの教会にも属していませんでした。ただ、いちばん近い教会に出席し、姉とわたしに、いっしょに行くよう誘いました。おかげでわたしは、イエス・キリストについて多くのことを学び、主への信仰を強める教会を見つけたいと思うようになりました。

ある日、家で『バッファロー・ビルの大西部年鑑』(Buffalo Bill's Wild West Annual)という大きな絵本を

見つけました。なぜ、その本が家にあるのか分かりませんでした。そのときは、友だちが持ってきて、家に持って帰るのを忘れたのだらうと思いました。絵本には、バッファロー・ビルやビリー・ザ・キッドの話が載っており、カウボーイになりたい男の子たちにとってまさに重要な情報が盛り込まれていました。絵本には、迫害された人々の話も載っていました。彼らは、無法者の暴徒によって美しい町から追い出され、何百キロもの旅を強いられ、果てしない苦痛に耐え、ついに西部の荒野で新天地を築いたのでした。小さな絵の一つ一つが、苦難と信仰の感動的な物語を、生き活きと描いていました。そしてその物語には、作物を食





い荒らすクリケット(訳注——イナゴのような黒い大型の昆虫)をかもめが飛んで来て食べた奇跡についての挿絵も何枚かありました。

わたしは、この貧しい、迫害された人々が、ある教会の会員であるとは知らずに、その物語を何度か読みました。そして、ゆっくりとではありますが「わたしが探していたのはこの教会だ」と思うようになりました。わたしはこの教会に加わりたくて願いました。しかし、不運にも問題に直面してしまいました。その物語の最後の絵は、ユタ州ソルトレーク・シティーの絵です。この絵本以外から、ユタ州はアメリカ合衆国にあることを知りました。イギリスからユタ州に行くなんてどう逆立ちしたって無理だと思ったわたしは、その教会に加わるのはあきらめるしかないのだと思いました。その教会が合衆国以外にもあろうとは、思いもよらなかったのです。

それから11年間で過ぎました。家族はオーストラリアのシドニーに移住していました。シドニーに移ってから、弟が新しい宗教を学び始めました。わたしは、弟が家に持ち帰った数冊のパンフレットに心が引かれました。弟は、「長老たちに、訪問してもらおう」と言いました。わたしは同意しました。そのとき頭の中で、威厳に満ちた二人の老人が訪ねて来ることを想像していました。ですから、わたしと同じ年くらいの二人の青年が訪れ、救いの計画について基本的なことを教えてくれたときにはとても驚きました。好奇心をそそられたわたしは、すべてのレッス

ンを受けることに同意しました。

宣教師の話は聞きましたが、教会に入るつもりはありませんでした。特に、^{じゅうぶん} 什分の一について学んでからはそうでした。しかし、ある日のこと、宣教師の一人が開拓者について話し始めました。ソルトレーク・シティーという土地まで、長い距離を移動しなければならなかった人々の話でした。わたしは耳をそばだてて聞き、質問をし始めました。「この教会は、クリケットとカモメの話と関係がありますか。」長老がブリガム・ヤングについて説明し始めると、すぐにその名前を思い出しました。わたしは、人生の重要な岐路に立っていることを悟りました。もし、わたしがいずれかの教会に加わるのだとすれば、それはこの教会しかありません。

什分の一についての問題は、知恵の言葉について学んだときに解決しました。計算してみると、収入の10パーセントを、たばこや酒に使っていたことが分かりました。ですから、什分の一を支払っても、財政を圧迫する原因とはならないのです。その上、たばこのやにが肺に詰まったり、肝臓を害したりするより、もっと有益なことにお金が使えます。

そうこうしている間に、弟は、母にもパンフレットを渡していました。母は、「今日、通勤列車で読むよ」と言っていました。夕方、家に帰ってくると、母はすっかり教会に夢中になっていました。バプテスマを受けるには、宣教師から

一通りレッスンを受けなければならないと聞き、がっかりしたほどでした。

こうして、わたしたちはみな、教会に加わりました。最初に弟が、そして1週間後にわたしが加わり、そしてさらに1週間後、母がバプテスマと確認の儀式を受けました。父は21年間拒んでいましたが、1985年、ついに教会に加わりました。その1年後、わたしたちは皆、シドニー神殿で結び固められました。

わたしは、ソルトレーク・シティーに幾度か訪れ、パルマイラ、カートランド、ノーブーなど、教会歴史上重要な場所にも行きました。どこへ行っても、バッファロー・ビルの絵本の中の物語が思い出され、主が10歳のわたしにその絵本を下さったことに感謝し続けました。■

一人につきバケツ1杯

ジェームズ・W・リッチー

2004年7月12日のことです。わたしは午前5時20分ごろに目覚め、いつものように窓の外へ目を向けました。敷地の門にいる守衛が目丸くしています。一人の女性が非難がましく彼の顔の前で指を振っています。ほかにも25人の女性が柵に向かって立ち、めいめいが一つかそれ以上の空のバケツやたらいを持っています。わたしはすぐに服を着て外に出ました。

その前日、人口10万の都市テーマおよびその周辺数キロの地域で断水しました。約24時間だれも水を飲めず、パニック状態になり始めていました。わたしが会長を務めるガーナ宣教師訓練センターではこの問題に気づいていませんでした。センターには大きな貯水槽があり、水が必要なときはいつでもそこからくみ上げていたからで

す。断水のせいで新鮮な水は入って来ませんでしたが、貯水槽の中の水で必要を満たしていたのです。

それに加えて、(同じく柵で囲まれた敷地内にある)わたしたちの教会の外の蛇口からも、どういうわけか、まだ少し水が出ていました。それで、モルモンが水を持っているとだれかが言ったのでしょうか、いたるところからバケツを持った人が水をくみにやって来ました。管理人がわたしより先に教会へ着き、だれも入れさせないように頑張っていました。彼は、わたしたちの水も絶対にすぐになくなると思っていました。

わたしは守衛と管理人を呼び寄せ、管理人に、救い主ならどうなさるだろうかと尋ねました。わたしたちが下す決断によって人々の心にわき上がるよい感情、あるいは悪い感情について深く考えるように言いました。わたしは

彼にこう言いました。「確かに、教会の蛇口からも水がすぐに出なくなるかもしれない。でも、どうせなくなるなら、最後の一滴が隣人のバケツに入る方がよいでしょう。」管理人は同意してくれました。わたしたちは門を開け、敷地内に駆け込もうとする群集の中に何とかして秩序を作り出そうとしました。水の持ち帰りを「一人につきバケツ1杯」に限るよう必死でお願いしました。時刻は6時15分ごろ、長い行列ができています。水の流れは勢いよくはありませんでした。それでもずっと流れ続けました。

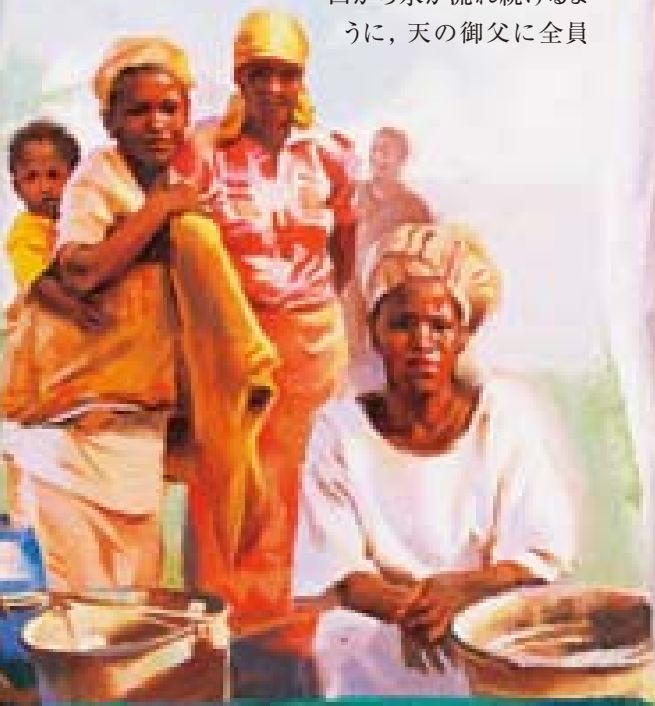
水はそのうち止まるだろう、わたしたちはそう思っていました。水が手に入るのは町中でここだけです。のどの渇き切った人々のために、町でただ一つの蛇口から水が流れ続けるように、天の御父に全員

で祈りました。水は流れ続けました。人々の心は感謝で満たされました。

この危機的状況の中で、もう一つすばらしい出来事がありました。宣教師訓練センターの貯水槽を調べると、水は半分しかありませんでした。わたしたちはそのことを公にしないでおこう

と考えました。この状況が何日も続いた場合に起こりえる、深刻な緊急事態に備えて取っておくべきだと思ったのです。すると1台の小型トラックが荷台に大きなたるを幾つか積んで敷地に入ってきました。テーマ総合病院から来た車でした。病院にも緊急時に備えて大きな貯水槽があったのですが、すでに空になり、患者のどのを渇かしているとのこと。そこでトラックを宣教師訓練センターの貯水槽まで後退させ、センターの非常用水を全部のたるに入れて、もっと必要ならまた来るように伝えました。わたしたちは貯水槽が空になるまで分かち合うつもりでした。病院は感謝しました。その日の午後3時ごろ、町の水道が復旧し、列を作っていた人々は空のバケツを持って急いで帰宅しました。けれどもあのときの良い気持ちは、いつまでも心に残っています。■

モルモンが水を
持っている
とだれかが
言ったので
しょう、
いたるところ
からバケツ
を持った人
が水を汲み
にやって来
ました。



聖約を思い起こす

機関誌『リアホナ』は、もっと善い人になれるように助けてくれます。記事を読む度に神の愛を感じ、神と交わした聖約を思い起こします。「末日聖徒の声」では、わたしたち皆が試され、試練を受けていることが分かります。今、すべてのことに忍耐強くなる方法を学んでいます。以前より進歩していると感じます。この調子で終わりまで堪え忍べるよう努力するつもりです。

フィリピン
クリスティーン・トレス・ラゲンベ

主の声

『リアホナ』の記事は、とても霊を鼓舞してくれます。経験談を読むのがとても好きです。いちばん好きな記事は、預言者のメッセージです。それは、わたしたち青少年へ向けられた主の声だからです。『リアホナ』の記事に感謝しています。そして、記事について友だちと話し合うのが好きです。

エクアドル
ジャクリーン・ベドージャ

『リアホナ』の言葉を味わう

学校で、いろいろな雑誌や出版物を調べる課題が出されました。ほかの雑

誌は、ページを飛ばしながら読んだのですが、『リアホナ』は、最初から最後まで全部読みました。でも読むのはそれほど大変ではありませんでした。すべてのメッセージやニュース、物語に、わたしの家族一人一人に役立つ靈感に満ちた言葉や教訓、力強い勧告がたくさん書かれていたからです。

『リアホナ』の言葉をよく味わって

いない会員は、優れた

宝を失っている

と思います。

フィリピン
アイリーン・
タニエグラ

読まずに いられない

『リアホナ』が家に届いてから2週間後には、全部読み終えます。すべての記事が大好きです。『リアホナ』は、困難なときに助けを与えてくれます。また、疑問に正しく答えてくれます。わたしにとって『リアホナ』は、リーハイとその家族が頼りにしていた指示器と同じくらい必要なものです。クエンティン・L・クック長老の記事「世に

あつて世のものとならず」(2006年2月号)は、ほんとうにすばらしく、感銘を受けました。わたしは、すべての末日聖徒に、『リアホナ』を通して、指導者や預言者が今語っている言葉を熱心に読んでほしいと思います。

アルゼンチン
ヘクトル・イラマイン

霊における兄弟

皆さんの機関誌のロシア語版で、このメールアドレスを知りました。皆さんの機関誌と宣教師に感謝しています。わたしはモルモン書を持っています。そして『リアホナ』を読んでいます。読んでいると、疑問に思っていたことの答えが見つかります。このようにすばらしい人々を育てているこの宗教は、尊敬と称賛に値すると思います。わたしはロシア正教会の会員ですが、わたしたちは霊における兄弟だと思います。

ウクライナ
オレグ・アナトルウエビッチ・ヤコブレフ

写真/ジョン・ルック、写真はイメージです。「神聖な指示器を発見する荒野のリーハイ」の部、アーノルド・フライバーク画、教会歴史美術博物館の厚意により掲載。背景 © PHOTOSPIN



記事をお寄せください

福音を分かち合った、良い経験がありますか。あなたが行った、会員伝道の記事を募集しています。記事(800字以内)は2007年3月15日必着で liahona@ldschurch.org または以下の住所にお送りください。

Liahona, Sharing the Gospel
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス、ワード/ステーク(支部/地方部)を明記してください。採用時には採用通知をお送りします。



複製は禁じられていません

「ハイドパークのスピーカーズ・コーナー, 1934-1935年」 ジョン・メゾン画

ロンドンのハイドパークにあるスピーカーズ・コーナーで、群衆に福音を説くゴードン・B・ヒンクレイ長老。
1930年代半ばにイギリスで伝道していたヒンクレイ長老は、卓越した能力を発揮して奉仕し、
やがて、ヨーロッパの全伝道部を管理する十二使徒の補佐として召された。



心 に平安があり、奉仕に喜びを感じ、自分に自信がある——
ヨハネスバーグの若い男性と女性の顔からは、
それがはっきりとうかがえます。

これらは、神殿での奉仕から得られる祝福です。
彼らは神殿の神聖さとそこに満ちる御霊みたまについて確信しているので、
自分自身を大切にし、主の神殿を尊ぶことがいかに重要かを
よく理解しています。「神殿を尊ぶ」10ページ参照

